

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価に関する報告書**

**対象年度 平成28年度**

**平成29年10月**

**和歌山市教育委員会**



— 目 次 —

I	はじめに	1
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1
2	点検及び評価の実施方法について	1
3	和歌山市教育委員会事務評価委員会が対象とする事務事業について	1
4	議会への提出及び公表について	2
	別記① 和歌山市教育振興基本計画	3
II	平成28年度教育委員会の活動状況	7
1	教育長及び教育委員	7
2	教育委員会会議の開催状況	7
3	教育委員会会議議案一覧	8
4	教育委員会会議以外の主な活動状況	11
5	教育委員会の活動状況の評価	12
III	点検及び評価	13
1	自己評価	13
2	和歌山市教育委員会事務評価委員会評価	55
IV	その他	73
1	教育委員会の組織	73
2	教育費決算額	74
	① 平成28年度教育費決算額内訳	
	② 教育費決算額の推移	
3	関連法令等	75
	① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	
	② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例	
	③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	
	④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱	

## I はじめに

### 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

### 2 点検及び評価の実施方法について

平成29年度に実施する点検及び評価は、平成28年度事業を対象とし、和歌山市教育振興基本計画の基本理念である「ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育」の実現に向け取り組んでいる5項目の基本方針、10項目の基本目標及び19項目の基本施策（別記①）を推進する主な事務事業を整理し、決算及び施策の成果等をまとめるものとします。

また、教育に関する有識者による外部評価については、和歌山市教育委員会事務評価委員会において幅広い視点から事業内容を検討し、個々の事業の課題や今後の方策・方向性等について点検・評価を行い、評価の客観性及び信頼性を高めます。

#### 和歌山市教育委員会事務評価委員会 委員

氏名	所属
本山 貢	和歌山大学教育学部 教授／副学部長
芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学 教授
長尾 光代	和歌山市公立幼稚園PTA連合会 会長
打田 雅子	和歌山市小学校PTA連合会 副会長
亀井 江美	和歌山市中学校PTA連合会 母親代表委員長
鳥居 裕史	智辯学園和歌山中学・高等学校 中学校長

### 3 和歌山市教育委員会事務評価委員会を対象とする事務事業について

教育委員会の権限に属する事務事業のうち、教育行政の推進上重要な施策について、評価委員会の点検及び評価の対象事務事業として抽出し、実施するものとします。

平成29年度については、次の8事務事業について実施しました。

和歌山市教育委員会事務評価委員会が対象とした事務事業

基本方針	基本目標	基本施策	事務事業	担当課
Ⅰ社会を生き抜く学力の育成	1 確かな学力を育む教育の推進	1-2 信頼と期待に応える学校づくりの推進	教育調査研究事業（地域先達活用事業）	教育研究所
			特別支援教育就学奨励費交付事業	学校教育課
		1-3 学校の組織力と教職員の指導力向上	生徒指導補助員配置事業	教職員課
Ⅱ豊かな心と健やかな体の育成	3 豊かな心を育む教育の推進	3-2 郷土を愛するふるさと教育の推進	発明創作事業	学校教育課 （こども科学館）
Ⅳ家庭や地域における教育力の向上	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造	7-2 地域における教育力の充実	青少年育成市民会議事業（子どもなかよしまつり、少年のつどいなど）	青少年課
Ⅴ生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興	8-1 生涯学習の推進	公民館活動事業（成人祝賀式事業）	生涯学習課 （中央公民館）
	9 文化の振興と文化財の保護・活用	9-1 文化活動の推進	真舟芸術振興基金事業	文化振興課
	10 スポーツの振興	10-1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用	市民マラソン（和歌浦ベイマラソン with ジャズ）開催事業	スポーツ振興課

4 議会への提出及び公表について

本報告書は、点検及び評価の結果をまとめたものであり、市議会へ提出するとともに公表することにより、透明性を高め効率的・効果的な事務改善に努めたいと考えます。公表に際しては、和歌山市教育委員会ホームページに掲載します。

[http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou\\_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html](http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html)

別記①

和歌山市教育振興基本計画

## 別記①

和歌山市教育振興基本計画（平成27年度～平成30年度）

### 基本理念

## ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育

教育の根幹は『人づくり』であり、その『人づくり』の基盤となるものは、学校だけでなく、家庭や地域を含めた社会全体と考えます。そこで、子どもだけでなく、子どもたちと共に過ごす家庭や地域の方々も一緒に学べる環境をつくり、地域のつながりをより強くします。また、様々な知識や経験を持った方々が結びつき、支えあうことによって、地域における課題解決や地域の発展につなげることのできる社会をつくります。

これらの取組を通して、社会全体で将来の和歌山市を創造できる人を育てる教育をめざし、これを基本理念とします。

### めざす人間像

#### ○ 自ら考え、判断し、表現する力を持ち、規律ある行動をする人間

変化の激しい現代を生きていくために、基礎的な学力はもちろん、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた上で、社会の一員としての自覚を持って規律ある行動をとることのできる人間の育成をめざします。

#### ○ 人権を尊重し、情操豊かにたくましく生きる人間

いじめや暴力などの問題行動をなくすために、生きることの尊さを理解し、自他の生命を大切にすることを育みます。また、様々な人権問題を正しく理解し、互いの立場を理解し、よりよい人間関係を築ける人間の育成をめざします。

#### ○ 郷土を愛し、よりよい社会の形成者となる人間

自ら育った地域の歴史や文化のよさを知り、郷土を愛する心を育みます。また、ふるさと和歌山の地域の一員として、主体的に社会に貢献できる人間の育成をめざします。

## I 社会を生き抜く学力の育成

- ・ 確かな学力を育む教育の推進
- ・ グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進

子どもたちが毎日をいきいきと過ごせるよう、また、将来の夢や目標を実現するために必要な「確かな学力」を身に付けられるよう、信頼と期待に応える学校づくりに取り組みます。

さらに、日々変化していく情勢や国際化社会に対応できるよう、学力の向上だけでなく、資質や能力を伸ばし、たくましく生き抜く力を育みます。

## II 豊かな心と健やかな体の育成

- ・ 豊かな心を育む教育の推進
- ・ 健やかな体を育む教育の推進
- ・ 平和で人権を尊重する社会を築くための教育の推進

人権・同和教育や道徳教育を推進し、体験活動を充実させることで、子どもたちの豊かな心を育みます。

また、子どもたちの体力向上や健康の保持増進を通して、生涯にわたって健康で安全に生活できるような健やかな体の育成に取り組みます。

## III 安全・安心な教育環境の整備

- ・ 多様なニーズに対応する教育環境の整備

教育や学習方法の多様化に対応した施設、設備の充実を図るとともに、安心・快適に過ごせるように教育環境の整備や充実を図ります。

また、校外においても、安全に過ごせるよう、地域や家庭、関係機関と連携して、子どもたちを見守る環境づくりを推進します。

## IV 家庭や地域における教育力の向上

- ・ 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造

子どもたちが基本的な生活習慣や自立心を身に付けるように、家庭での教育力の充実を図ります。

また、地域における社会教育の拡充を支援し、学校・家庭・地域の一層の連携を図ることで青少年の健全育成に努めます。

## V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興

- ・生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興
- ・文化の振興と文化財の保護・活用
- ・スポーツの振興

地域の拠点となるコミュニティセンターを中心に、生涯学習環境の整備、充実を図るとともに、生涯を通じて文化・スポーツ活動に親しめるよう、環境の充実を図ります。



## 計画の体系

基本方針	基本目標	基本施策	具体的な取組
I 社会を生き抜く学力の育成	1 確かな学力を育む教育の推進	1-1 教育課程の充実と学力の向上	① 小中一貫教育の研究と推進 ② 適正な教科書採択 ③ 学力の向上 ④ 読書活動の充実 ⑤ 幼児教育の充実
		1-2 信頼と期待に応える学校づくりの推進	① 開かれた学校づくりの推進 ② 特別支援教育の充実 ③ いじめ問題への対応 ④ 不登校問題への対応 ⑤ 教育相談活動の充実 ⑥ 安全教育・防災教育の充実
		1-3 学校の組織力と教職員の指導力向上	① 専門教員の活用 ② 教員研修の充実
	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進	2-1 国際化・情報化に対応した教育の推進	① 英語教育・国際理解教育の充実 ② 情報化に対応する教育の充実
		2-2 高等教育機関との連携強化	① 大学等との連携強化と充実
	II 豊かな心と健やかな体の育成	3 豊かな心を育む教育の推進	3-1 道徳教育の充実
3-2 郷土を愛するふるさと教育の推進			① 郷土学習の推進 ② キャリア教育の推進 ③ 自然体験学習の充実
3-3 文化芸術教育の充実			① 文化芸術に関する学習や体験活動の充実
4 健やかな体を育む教育の推進		4-1 体力の向上と健康教育の充実	① 学校体育の充実 ② 健康教育の充実 ③ 食育の推進
			5 平和で人権を尊重する社会を築くための教育の推進
III 安全・安心な教育環境の整備	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備	6-1 学校教育環境の整備	① 安全・安心な教育環境の確保 ② 学校施設の充実 ③ 情報ネットワークの充実 ④ 学校図書館の充実
		6-2 学校の適正規模化の推進	① 学校適正規模化の推進
		6-3 地域・家庭・関係機関と連携した子どもたちの安全の確保	① 子どもの安全確保の推進
IV 家庭や地域における教育力の向上	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造	7-1 家庭における教育力の充実	① 家庭教育・子育て支援の充実 ② 家庭教育を支える人材育成 ③ PTA育成の推進 ④ 放課後児童の健全育成
		7-2 地域における教育力の充実	① 学校週5日制対策 ② 地域との連携・協働体制の推進 ③ 青少年の健全育成
V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興	8-1 生涯学習の推進	① 生涯学習の啓発・推進 ② 公民館活動の充実 ③ 生涯学習施設の整備・充実 ④ 市民図書館の整備・充実
			9 文化の振興と文化財の保護・活用
	9-2 文化財保護活動の推進	① 文化財の保護・活用の充実 ② 埋蔵文化財の発掘調査 ③ 博物館の充実	
	10 スポーツの振興	10-1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用	① スポーツ大会・合宿等誘致活動の促進 ② スポーツ大会・教室の充実 ③ 学校体育施設開放の推進 ④ 社会体育施設の充実と指導者の育成 ⑤ マリンスポーツ・体験型観光の推進 ⑥ 和歌浦バイマラソンの充実

## II 平成28年度教育委員会の活動状況

### 1 教育長及び教育委員

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	はら かずき 原 一起	平成24年10月 1日	平成24年10月 1日～平成28年 9月30日 平成28年10月 1日～平成31年 9月30日
教育長職務代行者	ふじもと さだお 藤本 禎男	平成28年10月 1日	平成28年10月 1日～平成32年 9月30日
委員	なかさこ ひろし 中迫 廣	平成17年10月22日	平成25年10月22日～平成29年10月21日
委員	かねこ ふきこ 金子 富貴子	平成26年12月28日	平成26年12月28日～平成30年12月27日
委員	もりさき ようこ 森崎 陽子	平成28年12月15日	平成28年12月15日～平成31年 3月28日
委員長	なかむら ひろし 中村 裕	平成16年 7月 4日	平成24年10月 1日～平成28年 9月30日
委員長職務代行者	むろ みどり 室 みどり	平成11年 3月29日	平成27年 3月29日～平成28年11月30日

### 2 教育委員会会議の開催状況

月日	議案	報告	案件	月日	議案	報告	案件
4月 7日	3	3	0	11月 9日	11	0	0
5月12日	8	2	0	11月21日	1	0	0
6月 9日	1	2	0	12月20日	5	3	0
7月14日	12	1	0	1月12日	7	2	0
8月12日	7	0	0	2月 9日	17	4	0
8月30日	3	0	0	3月 9日	6	3	0
9月23日	3	3	0	3月16日	5	0	0
10月13日	6	3	0	計	95件	26件	0件

### 3 教育委員会会議議案一覧

4月 7日	社会教育委員の委嘱について
	伏虎中学校区小中一貫校（伏虎義務教育学校）の校章デザインの選定について
	和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択について
5月12日	旅館業法に基づく意見について
	和歌山市教職員倫理規程について
	平成28年度和歌山市教育委員会客員指導主事について
	平成29年度使用の和歌山市立小中学校教科用図書について
	和歌山市指定文化財の指定について
	和歌山市立安原小学校吉原分校の在り方について
	和歌山市立幼稚園教員採用選考検査実施について
平成29年度使用の和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択に係る選定委員について	
6月 9日	平成28年度6月補正予算要求見積書（案）について
7月14日	和歌山市教育機関組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規則の一部改正について
	平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会委員の委嘱について
	和歌山市社会教育委員の委嘱について
	和歌山市民図書館協議会委員の任命について
	和歌山市立博物館協議会委員の任命について
	人事案件について
平成29年度から使用する和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択について	
8月12日	和歌山市立小学校及び中学校通学区域並びに学校指定に関する規則の一部改正について
	平成29年度和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜の概要について
	平成28年度9月補正予算要求見積書（案）について
	和歌山市立学校給食共同調理場条例の一部改正について
	和歌山市民図書館分館を含む複合施設を設置する条例について
	和歌山市民図書館条例施行規則の一部改正について
特別支援学級における平成29年度使用教科用図書について	
8月30日	和歌山市立伏虎中学校の跡地の貸付けに係る和歌山市財務に関する条例の特別措置に関する条例について
	人事案件について
	第5次和歌山市長期総合計画基本構想（案）について
9月23日	和歌山市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
	平成29年度和歌山市立和歌山高等学校各課程・学科の募集定員について

9月23日	平成29年度使用の和歌山市立和歌山高等学校教科用図書採択について
10月13日	和歌山市社会福祉審議会委員の推薦について
	平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（案）□について□
	平成28年度和歌山市教育功労者表彰について
	和歌山市家庭教育支援条例の制定について
	和歌山市立幼稚園任期付園長採用選考検査実施について
	和歌山市立幼稚園教頭候補者選考検査実施について
11月09日	和歌山市立伏虎義務教育学校の学校案内について
	和歌山市立博物館協議会委員の任命について
	平成28年度12月補正予算要求見積書（案）について
	和歌山市立雄湊小学校の廃校後の校舎について
	和歌山市立体育館の指定管理者の指定について
	和歌山市立市民スポーツ広場の指定管理者の指定について
	和歌山市立市民温水プールの指定管理者の指定について
	和歌山市コミュニティセンターの指定管理者の指定について
	和歌山市民会館の指定管理者の指定について
	和歌山市立和歌の浦アート・キューブの指定管理者の指定について
	和歌山市教育委員会の人事について
11月21日	人事案件について
12月20日	平成28年度末教職員人事異動に関する方針及び努力点について
	市民会館（仮称）市民文化交流センター基本計画について
	人事案件について
	特別支援学級における平成29年度使用教科用図書について
	人事案件について
1月12日	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	平成29年度組織改正について
	和歌山市立体育館条例の一部改正について
	和歌山市児童生徒文化奨励賞の授賞候補について
	和歌山市川端龍子賞等の授賞候補について
	人事案件について
	人事案件について
2月9日	和歌山市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規則の一部改正について
	和歌山市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部改正について
	和歌山市立小学校、中学校及び高等学校の校長に対する事務委任規程の一部改正について
	和歌山市民会館条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立和歌の浦アート・キューブ条例施行規則の一部改正について
	和歌山市川端龍子賞等表彰規則の一部改正について
	和歌山市立学校管理規則の一部改正について

2月 9日	和歌山市立博物館条例施行規則の一部改正について
	和歌山市立伏虎義務教育学校の設置に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
	和歌山市立学校条例の一部改正について
	和歌山市立学校条例の一部改正について
	和歌山市教育支援委員会条例の一部改正について
	和歌山城条例及び和歌山市立こども科学館条例の一部改正について
	平成28年度2月補正予算要求見積書(案)について
	平成29年度教育委員会関連の主要事業(案)について
	和歌山市立安原小学校吉原分校の休校について
	新図書館の土地及び建物の取得に係る権利変換計画の同意及び負担金契約について
3月 9日	和歌山市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
	和歌山市教育機関組織規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会公印規則の一部改正について
	和歌山市立つつじが丘テニスコート条例施行規則の一部改正について
	平成29年度教科用図書採択に係る基本方針について
人事案件について	
3月16日	和歌山市教育委員会事務決裁規則の一部改正について
	和歌山市教育委員会文書取扱規程の一部改正について
	平成29年度和歌山市学校教育指針について
	平成29年度教科用図書採択に係る基本方針について
	人事案件について

#### 4 教育委員会会議以外の主な活動状況

実施日	訪問先・参加行事	内 容
4月11日	川端龍子賞等表彰式	式典への出席
5月 5日	子どもなかよしまつり	行事への出席
6月 3日	和歌山県市町村教育委員会連絡協議会定期総会	総会及び講演会への出席
6月29日	和歌山市美術展覧会オープニングセレモニー	式典への出席
7月12日	第1回総合教育会議	会議への出席
8月 4日	明日の和歌山市を築くジュニア会議	会議への出席
10月25日	近畿市町村教育委員会研修大会	講演会への出席
11月13日	和歌山市教育功労者表彰式	式典への出席
11月15日	和歌山市文化表彰	式典への出席
11月19日	和歌山市教育・学びあいの日記念事業	式典・講演会への出席
11月24日 11月25日	和歌山県市町村教育委員会研修会 和歌山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	情報交換会（分科会）及び講演会への出席
1月 8日	はたちのつどい	式典への出席
2月11日	公民館フェスティバル	行事への出席
2月19日	和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰式	式典への出席
2月25日	和歌山市スポーツ賞表彰式	式典への出席
3月 8日	中学校卒業式	式典への出席
3月21日	小学校卒業式	式典への出席
3月31日	退職校園長感謝状授与式	式典への出席



明日の和歌山市を築くジュニア会議



和歌山市教育・学びあいの日記念事業



和歌山市教育功労者表彰式



和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰式

## 5 教育委員会の活動状況の評価

### 【評価】

定例及び臨時教育委員会会議の開催に加えて、学校訪問や各協議会への参加などを通じて教育委員としての必要な知識を深めるとともに、各種行事や式典へ出席するなど、多岐にわたり活発に活動することができた。

また、教育委員会会議においても各委員専門分野の視点から議案等に対する活発な議論を交わし、円滑な教育行政の推進を図ることができた。

### 【今後の取組】

学校訪問や教職員との意見交換などを積極的に行い、子どもたちの学習環境の改善に努めます。

また、総合教育会議において、首長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について引き続き協議・調整を行い、より一層民意を反映した教育行政を推進します。

### Ⅲ 点検及び評価

1 自己評価(平成28年度に実施した主な事業の点検及び評価を行いました。)

※「担当課評価」の欄は、事業の目的達成状況を担当課で評価しています。

A:達成している B:概ね達成している C:達成していない

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額(千円)	担当課	担当課評価
	学力向上支援事業	10,368	学校教育課	A
事業の目的	児童生徒の学力向上のために、地域で行われている学習会に講師(巡回指導員)を派遣して、学校と連携をとりながら学習指導を行う。			
事業の概要	10地区において、小・中学生を対象に実施する。小学生は算数・国語を中心に学習方法や基礎知識の習得を、中学生は英語・数学を中心に基礎学力の向上を目指す。			
成果	小・中学生を対象に、算数、数学、国語、英語等を中心に基礎学力向上のための学習支援を行い、学習意欲を高めるとともに学力向上に努めた。			
課題	巡回指導員の指導力向上に向けての研修を充実させるとともに、効果的な指導内容の研究をさらに進めたい。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額(千円)	担当課	担当課評価
	基礎学力向上事業	5,730	学校教育課	B
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紀州っ子学びノート」により小学生の読む力・書く力・伝え合う力を伸ばし、国語力の向上を図る。</li> <li>読書活動推進事業として「うちどく推進事業」を実施。20校園程度をパイロット校に指定し、読書活動を推進する。</li> <li>基礎学力向上の研究を推進し、成果の検証を通して学力向上を図る。</li> </ul>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紀州っ子学びノート」を小学生全員に配付し、授業や補充学習・家庭学習で活用し、読む力・書く力・伝え合う力を伸ばす。</li> <li>「うちどく推進校」として20校園程度をパイロット校に指定。うちどく図書を配備し、読書環境の充実・読書活動の推進を実践する。</li> <li>子供の基礎学力向上への取組として研究校を指定し、学力向上に向けて研究を進める。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紀州っ子学びノート」を市内全児童に配布し、各校で活用し、国語力の向上に努めている。</li> <li>「うちどく推進校」として研究校を指定し、読書活動について研究を進めた。</li> <li>子供の基礎学力向上の取組として研究校を指定し、研究を進めた。</li> </ul>			
課題	「紀州っ子学びノート」の内容をさらに充実させるため、改訂作業を進める。			



基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	小中学校科学作品等各種作品展開催事業	773	学校教育課	A
事業の目的	児童生徒が参加する作品展の活動を支援し、各教科教育の振興を図る。			
事業の概要	優れた作品を展示・公開・発表し、優秀作品には表彰状を贈呈する。			
成果	様々な分野で発表の機会を確保し、児童生徒の制作表現意欲を高めることができるとともに、教育の成果について保護者にも広めることができている。			
課題	より多くの学校に参加を促すとともに、すぐれた作品をモデルとして示すことができるよう、運営する研究会に働きかける。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課題の充実と学力の向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	教育課題調査研究事業	785	学校教育課	A
事業の目的	児童生徒の学力向上に向け、研究テーマを設定し実践的な研究を進める。			
事業の概要	各研究指定校は「国語」「算数」「社会」「理科」などの教科や「道徳」などの領域、「外国語活動」などの新しい教育課題を設定し、「言語力の育成」や「子供の主体的な学び」「豊かな心の育成」等の研究主題のもと具体的な研究実践を進め研究発表会等を実施する。			
成果	各研究指定校は、研究発表会、公開授業、研修会を開催し、成果を普及し他校との共有を図ることができた。			
課題	今後も学習指導法の展開等の改善に向けて一層の充実を図りたい。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	3歳児保育等事業	50,624	教職員課	A
事業の目的	<p>多人数の園や学級、障害のある園児等が在籍する公立幼稚園の教育環境の整備及び保育の質の改善を図る。</p>			
事業の概要	<p>20人を超える3歳児学級、30人を超える4・5歳児学級、障害のある園児が多く在籍する園に幼稚園教諭免許を有する非常勤職員（以下、「保育補助員」という。）を配置し、担任とともに複数体制で指導を行う。</p>			
成果	<p>26人（途中、退職者を含む。）の保育補助員を配置。保育補助員を通年で計画的に配置することにより、各園の実情に応じた教育内容の充実・あずかり保育等、地域のニーズを捉えた魅力ある幼稚園作りに寄与した。</p>			
課題	<p>障害があると思われる園児が、年々、増加傾向にあり、教育現場における特別支援教育の充実が求められる状況も続いている中、障害のある園児や学級の補助として保育補助員を要望する園も増えてきている。今後も、要望と実態に即した職員の配置が必要である。</p>			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	教育調査研究事業	2,277	教育研究所	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>優れた教育活動を展開する教員を教育研究所員に任命し、教育の諸課題について実践的研究を行い、その研究成果を普及させることにより、学校教育の充実と発展に資する。</li> <li>個人や学校・グループの教育研究を奨励し、和歌山市の教育水準の高揚を図る。</li> <li>子どもたちが郷土和歌山について学び、ふるさとに対する誇りと愛着の心を育成することを企図した社会科副読本「かがやく和歌山市」を作成し、和歌山市立小学校3年生全児童に配付する。</li> </ul>			
事業の概要	<p>&lt;研究所員活動&gt;現職教員を教育研究所員（6班、計28名）として任命し、2年間にわたり教育の諸課題について実践的研究を行い、研究成果を各校（園）の教育実践に生かす。</p> <p>&lt;教育論文表彰事業&gt;幼・小・中・高等学校すべての校種から「教育論文・実践録」を公募し、個人・学校・グループの教育研究を奨励する。</p> <p>&lt;副読本「かがやく和歌山市」の配付&gt;和歌山市立小学校3年生全児童に、社会科副読本「かがやく和歌山市」を配付し、地域学習に生かす。</p>			
成果	<p>&lt;研究所員活動&gt;平成27年・28年度の研究班「QUを活用した集団アセスメント」「小学校算数授業展開の新しい形の研究」「ICT教育についての研究」の研究成果を発表し、その成果を普及した。</p> <p>&lt;教育論文表彰事業&gt;教育論文の応募稿について、優秀な論文を表彰し、その成果の普及を図った。</p> <p>&lt;副読本「かがやく和歌山市」の配付&gt;平成24年度に学習指導要領に準拠し改訂した「かがやく和歌山市」を、和歌山市立小学校3年生全児童に配付し、各校で地域学習に活用した。</p>			
課題	<p>&lt;研究所員活動&gt;研究所員の研究成果を、市内学校（園）の校（園）内研修や研究活動と連動させたものとなるよう働きかけ、校（園）内研修の活性化につながるよう企図する。</p> <p>&lt;教育論文表彰事業&gt;若手教員が自己研鑽により実践力を育成していく観点から、自らの授業実践を論文等にまとめていくことをより一層推奨していく。</p> <p>&lt;副読本「かがやく和歌山市」の配付&gt; 子供が、和歌山市の人・もの・ことについて学び、ふるさとと人への理解と愛着を育むことのできる内容となるよう、毎年見直しを図る。</p>			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	1 教育課程の充実と学力の向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	幼保一元化対策事業	10,127	教職員課	A
事業の目的	幼保一元化への移行に向けて、幼児教育・保育の充実を図ることを目的とする。			
事業の概要	モデル園を指定し、教育課程終了後のあずかり保育を実施するため、幼稚園教諭免許を有する非常勤職員（以下、「保育補助員」という。）の配置等を行う。			
成果	6人（途中、退職者を含む。）の保育補助員を配置。保育補助員が、教育課程終了後の保育機能部分を担当することで、地域における保育が必要な子供がいる家庭を支援できた。			
課題	認定こども園を開園する場合の教職員体制と併せて、事業の今後の方向性を検討していかなければならない。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	特別支援教育児童生徒指導事業（障害のある幼児児童生徒への教育）	1,720	学校教育課	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある幼児・児童・生徒の適正な就学指導や相談活動を行い、個に適した就学先を教育支援委員会にて判定する。</li> <li>・特別支援学級に入級している児童生徒が、精神科医の診断を受けることにより、個々の教育的ニーズをより具体的につかみ、個のニーズに応じた指導を行う。</li> </ul>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援委員会委員が、幼稚園、保育所、学校及び家庭を訪問するとともに、医療機関や各関係機関等との連携を図りながら、子供の生活面・学習面・社会性や対人関係といった状況や実態を把握することで、教育支援委員会にて総合的な判断を行い、適正な就学先を判定する。</li> <li>・精神科医が学校や医院にて子供を観察し、適切な助言を行う。</li> </ul>			
成果	教育支援委員会での障害のある幼児・児童・生徒の適正な就学先の判定をもとに、保護者との合意形成をする中で、個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮についても検討していくことができた。			
課題	就学指導の申込のあった幼児・児童・生徒に対して、校園訪問や家庭訪問、また関係機関との情報提供等を教育支援委員会委員が担当して行っている。申込数が増えてくるに伴い、教育支援委員会委員を増員する、専門性のある退職者に委嘱を依頼する、あるいは教育支援委員会の審議のあり方を検討する、といった円滑で適正な就学指導を実施していく。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	特別支援教育支援員等派遣事業	127,035	学校教育課	A
事業の目的	特別支援教育支援員・支援補助員、介助員・介助補助員は、発達障害や肢体不自由のある児童生徒が在籍する学級において、児童生徒や教員（担任）を支援することにより学級運営の円滑化を図る。 特別支援教育専門員が学校を巡回し、学校や特別支援教育支援員に対して専門的な指導助言を行うことで、個に合った個別の支援のあり方や校内での支援体制づくりの整備を進める。			
事業の概要	学校長からの配置要望を受け、特別支援教育支援員・支援補助員、介助員・介助補助員を適切に配置する。支援員・支援補助員、介助員・介助補助員には、毎月支援（介助）記録を提出してもらうとともに、指導主事による学校訪問を行い、実態把握や指導支援を行う。 特別支援教育専門員が巡回訪問し、支援の必要な児童生徒への効果的な指導支援の手立てを専門的な見地から助言指導をしてもらうことで、個別支援の充実、教育環境の改善を図る。			
成果	立ち歩きや飛び出し、粗暴な言動等により落ち着いて学習に集中できない子供、また、通常の学級における発達障害等で困り感を持った子供への個別対応を丁寧にするすることで、学習意欲や気持ちの切り替えにつながった。			
課題	通常の学級における個別の学習指導や生活指導、別室での取り出し指導を行い、落ち着いた教育環境づくりを推進するためには、特別支援教育支援員の人数増員を行うと共に、必要に応じて複数配置が必要である。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校支援事業	1,771	学校教育課	A
事業の目的	学校が単独では解決が困難な諸問題を解決するために、学校問題サポートチームを活用する。			
事業の概要	学校問題サポートチームの委員から対応についての助言を受けて、学校をめぐる諸問題を解決する。			
成果	弁護士や心理士等が学校からの要請に応じて緊急対応し、適切な初期対応により早期に解決するケースや法的に対応が求められるケースで、弁護士や心理士等の的確なアドバイスが得られた。			
課題	一つのケースを多面的に捉え、弁護士、心理士、スクールソーシャルワーカー、警察OBや教員OBなど複数の視点から真のアセスメントを行うことにより、適切な対応をしていくことによって、問題の早期解決を図りたいと考える。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	教育相談活動事業（相談窓口の一元化）	25,265	子ども支援センター	A
事業の目的	18歳までの幼児児童生徒や保護者、教職員を対象に、教育や養育に関する相談の窓口を一元化することで、問題の早期解決を図る。			
事業の概要	子育てや教育上の問題など、相談の窓口を一つにすることで、内容に応じて適切な相談体制をとる。 教育相談員の資質向上を目指し、スーパーバイザーから助言、示唆を受けるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、必要に応じて教育・福祉が関わり、問題解決への支援を行う。			
成果	電話相談及び来所による教育相談を行うことで相談者の心理的安定を図ることができた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーはそれぞれ心理や福祉の立場で学校職員の一員として相談活動を行い、問題の解決にあたった。			
課題	子供を取り巻く環境は年々複雑化・多様化する中、学校においても対応が困難なケースが多くなっているが、スクールソーシャルワーカーの人数が少なく配置できる学校や勤務できる日数が少ないため十分な相談活動を行えていない。スクールカウンセラーの配置校は増えたが、年間の勤務日数が少ないため、今後増やしていきたい。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	帰国子女等受入れ対策事業（日本語指導の援助）	216	子ども支援センター	B
事業の目的	帰国子女や外国籍で日本語の理解が不十分な児童生徒の日本語指導を行いサポートすることにより、日常生活及び学校での学習活動の充実を図る。			
事業の概要	種々の外国語に関わるボランティアを募り、必要とされる学校に派遣し、必要な経費を支給する。			
成果	授業を理解できないだけでなく、友達とのコミュニケーションが取れないために学校で孤立しがちな帰国子女等に対して、日本語指導ボランティアを派遣し、そのような子供たちと触れ合うことで日本語の定着の手助けとなるだけでなく、1対1で対応してもらうことで精神的な安定につながり、コミュニケーション力の向上が期待できる。			
課題	国際交流課、市民協働推進課と連携を図りながら、日本語指導ボランティアの登録者数を増やし、支援が必要な児童生徒のニーズに応じたきめ細やかなサポートを図る必要がある。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	不登校児童・生徒の学校復帰支援事業	318	子ども支援センター	B
事業の目的	不登校児童生徒に対して、集団への適応能力を高めて学校復帰へ支援していく。			
事業の概要	不登校児童生徒に対して、学習活動を支援するとともに、仲間との触れ合いや体験活動を通じて集団への適応指導や生活指導を行う。また、学校や家庭、関係機関等との連携を深め、学校復帰を支援する。			
成果	家から一歩も外に出ることができなかった児童生徒が適応指導教室に通級し、指導員や他の通級生と触れ合うことで徐々に不安を取り除かれ、安心へと変化していく。教室での学習や活動だけでなく、調理実習や遠足などの行事に参加することで社会性を身に着けたり、自信を得たりすることで社会的な自立につながっている。			
課題	適応指導教室に通級しての指導や支援ばかりでなく、通級できない不登校児童生徒のために、相談員が家庭訪問を実施し、面談による心のケアや登校支援を行うなど、アウトリーチ型の支援を充実させたい。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	2 信頼と期待に応える学校づくりの推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	児童生徒安全推進事業	1,433	学校教育課	A
事業の目的	児童生徒の保護者に対し、不審者情報や学校からの連絡をメールを使って迅速に情報を伝える。			
事業の概要	年度当初にメール連絡システムを周知し、児童生徒の保護者が事前に登録し、学校や関係機関、市民の方から不審者情報等の情報が入った場合、必要に応じてメールを使って情報を伝達する。 また、新入学児童全員に防犯ブザーを配付する。			
成果	地域や家庭での見守り活動に役立てるため、不審者の目撃情報を保護者や関係機関に素早く発信し、児童生徒の事件・事故の被害を防ぎ、安全確保を図ることができた。また、不審者情報等のみならず、他の情報を提供していくことも可能であり、各校とも頻繁に活用できている。			
課題	不審者等による児童生徒への声掛け事案等の件数が増加しており、登下校時や帰宅後の安全確保が強く求められている。しかし、発生時刻から時間が経過して市教委に情報が届き、発信が遅れてしまったり、発信した情報の疑わしいものもあった。いかに、正確な情報を迅速に発信するかが今後の課題である。			



基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	3 学校の組織力と教職員の指導力向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	授業力向上サポート事業	4,342	教育研究所	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教員の指導力の向上を目的に、新規採用後3年目と4年目の小・中学校の教員を対象に、研修・研究のサポートを行う。</li> <li>・客員指導主事を活用し、学校の校内研修の活性化と充実を図る。</li> <li>・中学校において学び合いの授業づくりを推進するとともに校内研修を活性化させ、教授型授業から子ども主体の課題解決型授業への改善を図る。</li> </ul>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上研修：授業力向上を企図した集合研修を実施するとともに、退職したベテラン教員等を小学校に派遣して、新規採用後3年目、4年目の教員の訪問研修を行う。</li> <li>・退職校長等で組織する客員指導主事による学校の校内研修の活性化・充実を図る。</li> <li>・学び合いの授業づくりのため学識経験者を活用して、現場に密着した校内研修・指導支援を行う。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上研修訪問研修の受講者アンケートでは75%が「とても価値がある研修である」と回答しており、「価値があった」という回答とを合わせると100%となっている。研修指導員の指導力の高さにより、満足度が高い研修を実施することができた。</li> <li>・客員指導主事についても、校内研修の支援として効果が高い。</li> <li>・学級集団づくり意識調査Q Uを活用して、学び合いの授業づくりの土台づくりをし、研究指定校による校内研究会を7校で25回、校内研修会を7校で7回開催し、全体研修会として佐藤学教授を講師として招へいし、研究会を開催し114人の参加者を得た。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職校長等の研修指導員による訪問研修回数は、一人あたり年間のべ約40回である。研修指導員の人数の増加と人材の確保が必要である。</li> <li>・全中学校において授業改善に向けた取り組みをすすめるために、さらなる働きかけが必要となり、そのために校長連絡協議会等を積極的にもつ必要がある。</li> </ul>			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	3 学校の組織力と教職員の指導力向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	情報教育研修事業（ICTの活用）	1,511	教育研究所	A
事業の目的	<p>情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなど、双方向でわかりやすい授業を実現するとともに、児童生徒の情報活用能力の向上が図れるよう、21世紀にふさわしい学校教育を実現する教職員の資質の向上を図る。</p>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育研修の実施（電子黒板・書画カメラ等を活用した授業づくり研修、教材作成研修、情報モラル・セキュリティ研修、校務を効率化するオフィスソフトの操作実践研修、校務支援ソフトの操作実践研修、学校ホームページ作成・更新のための操作研修 等）</li> <li>・情報教育担当者会の実施</li> <li>・管理職研修の実施</li> <li>・学校訪問研修の実施</li> </ul>			
成果	<p>現在、教職員のICT活用能力、児童生徒の情報活用能力の向上にむけて、充実した集合研修・学校訪問研修を実施している。本事業は、常時必須のものであり、今後も情報教育のニーズを見極め、研修のテーマを厳選し、今必要な研修内容・研修方法を吟味しながら、本事業を展開していきたい。</p>			
課題	<p>ICT機器の操作をすべての教員に習得してもらうための操作研修を継続しながら、ICTを授業・校務に活用する能力を育成するためのワークグループ型研修を増やしていくことが必要である。また児童生徒に情報モラル指導ができる教員を育成するための研修を、今後一層充実して行う必要がある。</p>			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	1 確かな学力を育む教育の推進			
基本施策	3 学校の組織力と教職員の指導力向上			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	教員研修事業（初任者研修、10年経験者研修、各教科教育研修など）	1,806	教育研究所	A
事業の目的	教員公務員特例法を遵守し、教員の研修に関する計画を樹立し、その実施に努め、生涯を通じて学び続ける教員の育成を図る。			
事業の概要	<p>①基本研修の実施          教員としてのライフステージに応じた研修を実施。主なものは、次の研修。          初任者研修、2年次研修、10年経験者研修、新任校(園)長研修、新任教頭研修、新任教務主任研修、新任特別支援学級担当教員研修、臨時的任用教員研修、実践授業研修(講師研修)等</p> <p>②専門研修の実施          教員としての実践的指導力、専門性を高めるための研修講座を実施。</p>			
成果	教職員が教職生活全体を通じて学び続け、子どもたちや保護者はもとより広く社会から尊敬され、信頼される資質を備えるための研修を実施し、特に授業づくり等については、現場で行う研修を重ねたことで成果があった。			
課題	教員相互に学び合う校(園)内研修風土を一層醸成していくことが必要である。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進			
基本施策	1 国際化・情報化に対応した教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	英語教育推進事業	28,355	学校教育課	B
事業の目的	小学校での外国語活動の充実、中学校での言語活動の充実のためネイティブスピーカーとのコミュニケーション活動の機会を設けることが目的である。			
事業の概要	ALT（外国語指導助手）7名を和歌山市内のすべての市立小中学校、義務教育学校、幼稚園に派遣し、コミュニケーション能力を重視した外国語教育の充実を図っている。			
成果	児童生徒がALTとのコミュニケーションを通じ、楽しく学びながら「聞いて分かった」「話して通じた」という成功体験の積み上げができた。また、国際理解教育の機会が増えた。			
課題	ALTの人数が少なく、他都市と比較してもかなり少ない日数、時間数しか派遣できていない。今後、小学校3年生から外国語活動がはじまることもあり、ALTの増員が必要不可欠である。			



基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進			
基本施策	1 国際化・情報化に対応した教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	中学校国際交流助成事業（姉妹都市、友好都市との交流）	1,832	学校教育課	B
事業の目的	和歌山市の中学生・高校生が、姉妹都市の生徒と交流することで、広い国際的視野を養う。			
事業の概要	和歌山市とカナダ・リッチモンド市の中・高校生が相互訪問し、学校交流やホームステイを行い、国際親善に努める。本市の中・高校生が訪問するのは隔年であり、今年度はカナダ・リッチモンド市の中・高校生が和歌山市を訪問した。			
成果	カナダ・リッチモンド市との交流は40年を超え、学生同士の定期的な交流も定着している。29年度は、ホームステイ家庭を和歌山市立の全中学校、義務教育学校に広げ、11校の生徒が36名のカナダ・リッチモンドの生徒を受け入れることができ、国際的視野を養う機会が和歌山市全体に広がった。			
課題	和歌山市内の全中学校、義務教育学校にホームステイをお願いすることで、送迎や交流プログラムなどを学校教育課主導で進めることになった。そのことで、姉妹校としての交流が少なくなった。また、多忙な訪問スケジュールで、ホストファミリーからもう少しゆっくり過ごしたいとの要望もあった。交流プログラムの検討が課題である。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成			
基本目標	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進			
基本施策	1 国際化・情報化に対応した教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	外国人講師・国際交流事業	4,521	市立和歌山高校	B
事業の目的	外国語指導助手が常駐することにより、日本人教師では指導困難な異文化理解や生徒のコミュニケーション力の向上を図る。また、各種検定の取得に向けた、面接指導及びヒアリング指導を行う。			
事業の概要	生徒の国際化並びに英会話力の向上を図るため、外国語指導助手が常駐し、生徒のグローバル化に取り組む。年3回実施される日本英語検定（STEP）各級のヒアリング指導や面接指導、年2回実施される全国高等学校協会主催英語検定のヒアリング指導を行う。姉妹校交流の際の対応や通訳等の補助も外国語指導助手がその役割を果たす。			
成果	英語部を熱心に指導し、全商英語スピーチコンテスト全国大会へ出場する。《平成25年度県大会準優勝、平成26年度県大会優勝、平成27年度県大会優勝、全国大会ベスト12、平成28年度県大会優勝》授業において、ゆっくり音読したり、簡易な表現での英語で丁寧に生徒を指導することにより、生徒は親しみを持ち授業に取り組むことができている。			
課題	毎年のスピーチコンテスト県大会において常勝し、全国大会上位入賞を目指す。生徒に、リスニング力、コミュニケーション力を身に付けさせ、総合的な英語力向上を目指す。英語検定の合格率を上げるとともに、大学進学に向けた英語力の向上を図っていく。			

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成		
基本目標	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進		
基本施策	1 国際化・情報化に対応した教育の推進		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	情報教育推進事業	3,836	教育研究所
事業の目的	<p>情報教育推進校の子どもICT活用能力の育成と教員のICTを活用した授業改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より分かる授業により子どもの学力を向上</li> <li>・ICT機器を活用して思考力、判断力、表現力(考え、まとめ、伝える力)を育成</li> <li>・ICT機器を活用した授業方法の工夫・改善の研究、カリキュラムの作成</li> </ul>		
事業の概要	<p>「フューチャースクール」「学びのイノベーション事業」の委託事業の「研究実証校」として指定した和歌山市立城東中学校において、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を実現するために、生徒1人1台の情報端末、デジタル教科書・教材等のICTを活用し、生徒の学力向上及び教員の指導方法の改善に関する総合的な実証研究を実施する。</p>		
成果	<p>生徒1人1台の情報端末の活用により、個々の学習ペースに合った内容を選択できたり、興味・関心をもったことを自主的に調べたりできるようになり、積極的に学習に取り組む生徒が増えた。また、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、授業形態に共同的な学習スタイルを取り入れる教員が増え、成果がみられた。</p>		
課題	<p>電子黒板や、生徒1人1台の情報端末の、より効果的な活用場面を工夫するとともに教員の指導方法の改善をより一層進め、その成果を他校の教員と共有することが重要である。</p>		

基本方針	I 社会を生き抜く学力の育成		
基本目標	2 グローバルに活躍できる人材を育む教育の推進		
基本施策	2 高等教育機関との連携強化		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	学習補充教室推進事業（和歌山大学との連携協力推進事業）	4,036	教職員課
事業の目的	<p>市立幼・小・中・高等学校の児童・生徒及び和歌山大学教育学部の学生を対象として、和歌山大学教育学部と連携・協力し、教育ボランティアの活動を通じて、子どもたちの基礎学力や体力の向上に寄与するとともに、未来の和歌山市の学校教育を支える人材の育成を図る。</p>		
事業の概要	<p>和歌山大学教育学部の連携・協力のもと、学内に「学習支援推進室」を置き、学校現場と学生それぞれのニーズを調整し、和歌山市立幼・小・中・高等学校の教育活動に、「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する。</p>		
成果	<p>教育ボランティアの派遣校（園）数、派遣回数ともに増加傾向にある。ボランティア学生の受入れを行う学校（園）に行ったアンケート調査においても、子どもたちとの豊かな心の交流ができた、学校の活性化につながった等、好評である。</p> <p>また、公立小中学校の教科等別研修会へ、ボランティア学生の参加希望者を受け入れたり、和歌山市の教育の理解という観点から、教育委員会主催の研修会を開催する等、和歌山市の教員の育成にも寄与している。</p>		
課題	<p>和歌山大学との連携をさらに強化し、各派遣学校（園）でのボランティア内容の充実や登録学生1人当たりの活動回数の増加等について検討するとともに、学生を受け入れる側となる各校（園）に対しても、より一層、ボランティア学生を受け入れやすい体制づくりを進められるように働きかけていく。</p>		

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	環境教育推進事業	18,867	学校教育課	A
事業の目的	和歌山県内の小中学生を対象に、森林や林業にふれる機会をつくり、環境問題への関心を高め、森林を守り育てる意識を育む。			
事業の概要	森林組合に、森林の働き、林業の概要の説明、林業体験を委託している。 ①体験活動に備えた予習として事前学習 ②森林や山村へ出かけ森林・林業に関する体験学習 ③体験後の復習としての事後学習			
成果	児童は、事前学習により環境保全への関心を高め、森林体験で間伐などを体験し、森林で働く人々の思いを実感している。			
課題	今後も環境教育推進のため、本事業のより一層の充実を図りたい。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	職場体験事業	387	学校教育課	A
事業の目的	生徒に望ましい勤労観、職業観を身に付けさせ自分の生き方を考え、将来社会人・職業人として自立する力を身に付けさせる。			
事業の概要	事業所での職業体験により、勤労の尊さや創造することの喜びの体得、望ましい職業観・勤労観の育成などに加えて、実際的な知識や技術の習得を行い、学校での学習と職業との関係についての理解を深める。			
成果	職業や仕事を暫定的な窓口としながら、将来進む可能性のある職業を試行的に見学・体験し、職業や実社会へ視野を広げることによって、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることによって、社会の様々なことに気付く機会となっている。			
課題	一過性の体験活動に終わることなく、発達段階に応じたキャリア教育の中で系統的に世の中の仕組みを理解していく教育活動が課題である。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	少年自然の家運営事業	718	青少年国際交流施設準備事務所	A
事業の目的	豊かな自然環境の中で、自然観察や探求など自然に親しむ活動や伸び伸びとした野外活動を通し、豊かな情操や創造性を養うとともに集団生活訓練を通じて学校や家庭では会得し難い自立、協同、友愛、奉仕等の尊さを体験的に学習させ、たくましい少年の育成を期する。			
事業の概要	自然と接することにより自然を愛し、自然を尊ぶ態度を育てるとともに、集団宿泊生活を体験させることにより連帯、協調の意識を育て、野外活動や体育等様々な活動を通じて仲間との絆を深めるとともに意欲的にたくましく生き抜く力を育てる。施設老朽化による建替のため平成28年7月31日をもって、少年自然の家としての役割を終えた。			
成果	利用団体に様々な活動指導や生活指導等の支援を行うとともに、市内の小中学生及びその家族を対象とした主催事業を実施した。閉所中は、新施設運営の形態及び閉所時に取り組む事業について調査研究した。			
課題	利用対象を拡大し施設も生まれ変わることから、利用対象者を誰にするか、どのようにして施設を有効活用するか、検討する必要がある。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	青少年国際交流施設準備事務所管理事業	114,334	青少年国際交流施設準備事務所	B
事業の目的	少年自然の家営業時は施設利用者の利便性、施設の整備を図ることにより、少年の活動の場としての充実を果たし、ひいては情操を豊かにし心身の健康を図る場としての施設の維持管理。少年自然の家廃止後は、新施設のオープンに向けての準備事務を行う。			
事業の概要	少年自然の家の維持管理。施設老朽化による建替のため平成28年7月31日をもって、少年自然の家としての役割を終える。その後、8月1日からは青少年国際交流施設準備事務所と所属名を変更し、平成30年8月にリニューアルオープン（予定）する施設の実施設計と解体工事を行う。			
成果	利用者が安心・安全に活動できるよう設備を整備し、施設の維持管理を実施した。新施設のオープンに向けては実施設計と解体工事を行った。			
課題	改築後の運営・実施体制については以下の2点を検討する。 ①市民サービスの向上や経費削減を図るため、指定管理者制度導入について検討する。 ②改築後、使用料の見直しを検討する。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	こども科学館管理事業	12,497	こども科学館	A
事業の目的	こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物管理：来館者が快適に過ごせるように建物を管理する。</li> <li>・入館者管理：入館券、プラネタリウム観覧券の販売、収納金の管理、報告等。</li> <li>・その他：科学館の運営に必要な事務処理等。</li> </ul>			
成果	来館者が快適に過ごせるように建物管理ができた。 科学館運営に必要な事務が円滑に実施できた。			
課題	設備の老朽化により、空調における室温管理の調整が困難になっており、室温管理には、空調機械の運転に工夫が必要となっている。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	3 豊かな心を育む教育の推進			
基本施策	2 郷土を愛するふるさと教育の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	こども科学館運営事業	10,273	こども科学館	A
事業の目的	こどもの自然科学に関する興味と認識を深め、個性に応じた能力の伸長と情操豊かで創造的なこどもを育成する。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示事業：自然科学を理解させるため、操作体験型の展示物設置や郷土の生物・地学、天体に関する展示を行う。</li> <li>・プラネタリウム事業：正しい宇宙感を育てるため、子供達が興味を抱く天体や宇宙の解説を行う。</li> <li>・科学普及教室事業：自然科学をより深く理解し、情操豊かな子供の育成に資するため実験、観察、工作等を行う。</li> </ul>			
成果	年間入館者数は平成12年度25,260人、平成26年度37,775人、平成27年度38,013人、平成28年度41,040人。 科学普及教室の年間参加者数は、平成18年度2,410人、平成26年度3,926人、平成27年度4,378人、平成28年度4,278人であり、過去16年間に於いて高水準の値となっており成果が出ていると考えられる。			
課題	平成28年度の和歌山市内の小学校の来館は39校1,972人ととどまっているので、市内の学校からの来館を増やすこと。 休日の来館者のためにショータイプの科学普及教室事業を増やし、さらに来館者数を増やすこと。 老朽化している展示物やプラネタリウムの設備を新装改修あるいは改修を進めること。			



基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校体育事業（新体力テストの実施、外部指導者の配置など）	15,107	スポーツ振興課	B
事業の目的	小・中・高校生の児童、生徒の体力の向上及び、競技技術の向上を図ることを目的に、各種競技大会の実施や、外部指導者を派遣することにより、学校体育の育成と振興を図る。			
事業の概要	各種競技大会の実施に係る審判報償金の支出や、公立中学校、市立和歌山高等学校の運動部に、専門的な技術指導力を備えた指導者がいない場合に、学校の要請を受けて派遣する外部指導者報償金の支出や、中学校総合体育大会に係る派遣補助金等を支出している。また、子どもの体力向上事業として、毎年、新小学1年生と新中学1年生に対し、パワーアップチャレンジ手帳を配付している。			
成果	中学校総合体育大会夏季大会・秋季大会を開催することで、青少年の健全育成と体力向上に寄与できた。また、パワーアップチャレンジ手帳により、経年変化を知ることで、自身の体力向上への関心を高める意識付けが図れた。			
課題	パワーアップチャレンジ手帳については、活動頻度を増やすことで、より自分自身の体力向上への関心が高まることから、活用しやすい内容に変更していく必要がある。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校環境衛生維持管理事業（浄化槽の清掃、プール水質検査など）	46,075	保健給食管理課	A
事業の目的	児童、生徒等の健康保持増進のため各学校（園）の環境衛生設備の維持管理及び適正な処理を行い、学校環境衛生の保全を図る。			
事業の概要	浄化槽の清掃、保守点検、水質検査、貯水槽の清掃を実施する。			
成果	子どもたちの健康を保持増進し、学習能力の向上を図るため、プールの水質検査、貯水槽清掃及び浄化槽保守点検等、安全かつ快適な学習環境を作り上げることができた。			
課題	児童生徒の安心、安全な学校環境衛生の維持管理を継続するために施設の老朽化に伴う設備管理部門と今以上に連携を図ることが必要である。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	各種検診等学校保健事業（心臓病検診、結核検診、尿検査など）	28,480	保健給食管理課	A
事業の目的	各学校（園）の児童、生徒、教職員の健康管理及び保持増進のため、各種検診並びに学校保健振興のための諸事業を行う。			
事業の概要	心臓病、脊柱側弯等の各種検診を実施する。			
成果	健康診断を実施し、児童生徒の健康状態を把握。保健管理や健康教育等を通して疾病の予防及び早期発見に努めることができた。			
課題	1次、2次検診の未受診者がごくわずかであるが見られるため、各学校へ受診勧奨を行う必要がある。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校給食管理運営事業（安全・安心な学校給食の実施）	385,808	保健給食管理課	A
事業の目的	成長期にある児童に栄養バランスのとれた給食を提供し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進、体位の向上を図る。			
事業の概要	学校給食の調理業務等の民間委託を行い、円滑な給食実施のために、設備等の適正管理に努める。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、児童の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	安全、安心な給食の提供に努め、なお、地産地消に向け、できる限り和歌山産食材の調達を図っているが、流通量等の関係から十分に進まない。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校給食管理運営事業（中学校）	61,818	保健給食管理課	B
事業の目的	成長期にある生徒に栄養バランスのとれた給食を提供し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進、体位の向上を図る。			
事業の概要	民間委託による選択制デリバリ方式の給食を実施する。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、生徒の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	喫食率が当初の目標に達していないため、各学校長への呼びかけや試食会の開催により、生徒の喫食率向上に繋げたい。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	第一共同調理場施設管理運営事業（安全・安心な学校給食の実施）	102,478	保健給食管理課	A
事業の目的	和歌山市立小学校及び幼稚園における給食の調理等に関する業務を共同処理するため、第一共同調理場の給食運営を行う。			
事業の概要	共同調理場の調理配送等業務の民間委託を行い、円滑な給食実施のために設備等の適正管理に努める。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、児童の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	突然の故障および修繕により、調理が一時停止する日が増えており、老朽化の進行が見られる。			



基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	第二共同調理場施設管理運営事業（安全・安心な学校給食の実施）	147,659	保健給食管理課	A
事業の目的	和歌山市立小学校及び幼稚園における給食の調理等に関する業務を共同処理するため、第二共同調理場の給食運営を行う。			
事業の概要	共同調理場の調理配送等業務の民間委託を行い、円滑な給食実施のために設備等の適正管理に努める。			
成果	栄養バランスのとれた安全・安心な給食を提供することで、児童の健康の保持増進、体位の向上を図ることができた。			
課題	第二共同調理場の老朽化が進んでいるため、今後は建替え等を含めた整備が必要である。			

基本方針	Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成			
基本目標	4 健やかな体を育む教育の推進			
基本施策	1 体力の向上と健康教育の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	食育推進事業（研究発表会の実施）	42	保健給食管理課	B
事業の目的	健康や食に関心を持たせ、児童を対象に正しい食事の取り方や望ましい食習慣を身につけさせるよう、学校給食における食育を推進する。			
事業の概要	「食に関心をもち、健康について考えられる子の育成」を研究主題とし、2月頃公募により研究指定校の選定を行い、翌年度8月頃研究指定校の教員に対し研究講師が講習を行い、研究指定校は他校の教員を対象に研究発表会を行う。それに伴う、研究講師への報償金と研究会資料の印刷製本費を支給する。			
成果	学校・家庭・地域が連携して取り組む食育の在り方の研究を進め、児童の食に関する知識の習得に寄与することができた。			
課題	研究指定校の見直しが必要である。			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	1 学校教育環境の整備			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	遠距離通学児童生徒に対する助成事業	2,140	学校教育課	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠距離通学となる生徒の保護者の経済的負担の軽減を図る。</li> <li>・毛見トンネル以南の児童生徒の通学の安全確保を図る。</li> </ul>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山市滝畑に住所を有する生徒が、通学のため利用する交通機関の運賃相当額（半年定期2回分）を交付する。</li> <li>・毛見トンネル以南の児童生徒の就学を海南市に委託する。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛見トンネル以南の児童生徒の就学を海南市に委託することで通学の安全確保を図ることができた。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛見トンネル以南の児童生徒は減少しているため、和歌山市の小中学校を希望する児童生徒の確認を踏まえ、見直しを検討していきたい。</li> </ul>			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	1 学校教育環境の整備			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	就学援助費交付事業（経済的理由による就学困難者への援助）	113,558	学校教育課	B
事業の目的	経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者に対して、保護者負担の軽減を図る。			
事業の概要	<p>和歌山市立小・中学校に在学する児童生徒、和歌山市に住所を有し和歌山大学教育学部附属小・中学校、県立向陽中学校又は県立桐蔭中学校に在学する児童生徒の保護者について、児童扶養手当全部受給者又は世帯の総所得が認定基準額以下の場合、学用品費、修学旅行費等の一部を支給する。</p> <p>事務の流れ：年度当初に全児童・生徒の保護者に制度を周知し、随時申請を受け付ける。方法は、学校を通じて、申請・交付を実施する。</p>			
成果	学用品費、修学旅行費等の就学援助費を支給。平成28年度は社会見学費、校外活動費を増額。			
課題	他の中核市と比較すると、支給単価、認定基準ともに低い水準の状態にあるため、国基準並みに充実させたい。			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備		
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備		
基本施策	1 学校教育環境の整備		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	小・中学校改築事業	348,420	教育施設課
事業の目的	児童生徒等の安全を守り、安心して機能的かつ豊かな教育環境を確保するとともに地域住民の安全と安心の確保に資する。		
事業の概要	耐震化事業として、小中学校のブロック塀改修工事、快適な学習環境の確保また避難所としての防災機能強化のため中学校の教室に空調機を設置する。児童数が増加し教室が不足している山口小学校について校舎を増築する。また、老朽化施設の改築事業として老朽化した学校の屋外プールを耐震性のある浄水型プールに改築する。		
成果	小学校1校、中学校2校のブロック塀改修工事を実施し、耐震化を図ることができた。中学校17校2年生の普通教室等への空調機設置を完了し、学習環境の向上及び防災機能強化を図ることができた。山口小学校の校舎を増築し教室不足の解消ができた。また、岡崎小学校の屋外プール改築工事にかかる実施設計を完了させ、工事の準備が整った。		
課題	事業の実施には多額の費用が必要となるため財政難の折、いかに財源を確保するかが課題である。		

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備		
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備		
基本施策	1 学校教育環境の整備		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	高等学校施設充実事業	505	市立和歌山高校
事業の目的	教材教具の整備充実を図る。		
事業の概要	学校図書及び理科に関する校用器具の充実		
成果	図書の新規購入をすることにより、話題の書籍や生徒の興味関心の高い書籍を揃えることができ、読書活動の充実を図ることができた。また、理科の実験用器具を揃えることができ、授業の充実を図ることができた。		
課題	図書室の蔵書は、古いものが多く、書籍の質・量ともに充実を図っていく。また、理科においても基礎的な実験をするための校用器具の充実を図っていく。		

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	1 学校教育環境の整備			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	情報教育ネットワーク設備整備事業（教育研究所）	35,355	教育研究所	A
事業の目的	教育情報ネットワーク「きいねっと」の拠点としての役割を担い、市立小・中学校等のネットワークの管理を行うことにより、情報通信ネットワークの活用を図る。小・中学校の児童生徒及び教職員がインターネット、電子メール等を利用し、情報の収集、蓄積、共有、発信の能力を身に付けられる環境を提供する。			
事業の概要	教育情報ネットワーク「きいねっと」の管理運用。 市内小・中学校等における情報活用のための環境の提供。			
成果	教育情報ネットワーク「きいねっと」の拠点としての役割を担い、市立全小・中学校等における情報通信ネットワークの活用を図ると共に、システムに不具合が生じた場合の対応策にも備え、システム安定稼動のための円滑な維持管理ができた。			
課題	情報通信ネットワークを利用した教育の情報化は、校務及び教育の両面で今後さらに進むと考えられる。それに伴い次期機器更新に向けて、和歌山市教育情報ネットワークの拠点として、変化に柔軟に対応できるシステムの運用・管理方法の調査・検討を進める必要がある。			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	1 学校教育環境の整備			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校図書充実事業（小・中学校）	22,400	教育政策課	B
事業の目的	学校図書を整備し、児童・生徒の利用に供することによって、学校教育課程の展開に寄与するとともに、児童・生徒の健全な教養を育成することを目的とする。			
事業の概要	事業の目的を達成するために、各学校の規模を勘案し、図書購入費を当課から配分し、各学校において適宜、必要図書の選定を行い予算執行を行っている。			
成果	文部科学省が設定する「学校図書館図書標準」の標準冊数に対する蔵書充足率は、小学校で118.0%、中学校で127.4%を達成することができた。 (決算額：小学校14,962千円、中学校7,438千円)			
課題	各小中学校における図書の整備率について、全体目標値については達成しているものの、学校により整備率に開きがあるため、予算配分の見直しを行い、達成率の低い学校の底上げが必要である。			

基本方針	Ⅲ 安心・安全な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	1 学校教育環境の整備			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校図書館充実事業	1,508	教職員課	B
事業の目的	教育環境の充実と学力向上や家庭学習等、読書活動を通して子供の豊かな学びを目指すことを目的とする。			
事業の概要	「学校図書館活用プロジェクト」として、公立学校現場に学校司書（学校図書館専門職員）を配置し、教育環境の充実と子どもの読書活動を通じた様々な効果（学力向上面、家庭との連携面）を検証する。学校司書は、教員や図書ボランティアとともに、図書館の環境整備、読み聞かせ、ブックトーク等の読書活動にかかる支援、公共図書館からの団体図書の貸し出しの手続き等を行う。			
成果	図書の貸し出し数、学校図書館の来館者数に顕著に表れている。また、学校図書館と連携した学習を継続的に行うことで児童の国語学習に対する意識の高まりが見える。			
課題	前年度と異なり、平成29年度は、学校司書1人を1校に常駐させるのではなく、拠点校方式を用いて、1人で4校（小学校3校、中学校1校）を担当してもらい、各校において児童・生徒の読書活動を推進し、学校図書館を活用した学習活動の充実を図っている。今後は、効果を検証し、本市におけるより良い学校司書の配置の在り方を検討していくと共に、図書ボランティアの活用についても、市内全体に広げていく必要がある。			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	2 学校の適正規模化の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	学校適正規模化推進事業	3,785,567	教育政策課	A
事業の目的	児童生徒の増減により学校規模の適正化が必要な学校を対象に、適切な教育環境のもと、学校教育が行われるよう学校規模を整える。			
事業の概要	市立学校の適正規模化の検討対象について、現状把握と今後の学校規模の推移予測や学校・地域等関係者との協議等をおして、総合的な観点から適正規模化の方向性を調査・検討する。 また、小中一貫校設置事業について、伏虎義務教育学校の竣工、設置に係る課題および関係書類のとりまとめを行い、今後検討していく。			
成果	平成29年4月和歌山市で初となる小中一貫校、伏虎義務教育学校が開校した。			
課題	市内小中学校の適正規模化に向け、和歌山市立学校適正規模化の方針や国の適正規模化の手引きに基づき、小規模化が進む学校のあり方について、継続して検討を進める。			

基本方針	Ⅲ 安全・安心な教育環境の整備			
基本目標	6 多様なニーズに対応する教育環境の整備			
基本施策	3 地域・家庭・関係機関と連携した子どもたちの安全の確保			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	少年センター事業（街頭補導、相談、環境改善など）	6,349	少年センター	A
事業の目的	青少年を非行から守ることを目的として、少年非行の原因を探り、それを除去して本来の姿に立ち直らせるように努める。そのため県・市・学校・警察・和歌山市少年補導委員会等、各関係機関の協力を得て非行防止の活動に努めている。			
事業の概要	青少年非行の早期発見・早期補導及び少年相談 1. 街頭補導活動 2. 啓発活動 3. 青少年非行に係る相談活動 4. 各関係機関、団体等との連絡・調整・連携 5. 環境浄化活動 6. 調査研究活動			
成果	街頭啓発活動や情報モラル教室等の出前授業を積極的に行い、青少年非行の未然防止に取り組んでいる。また、少年相談の充実により、青少年の立ち直りに寄与している。街頭補導は、夜間も含め年間136回実施し、出前授業は小学校ではのべ26校、中学校ではのべ23校で実施できた。各関係機関、団体との密な連携により青少年問題の早期解決につなげている。			
課題	インターネット・スマートフォンの児童生徒への急速な普及に伴い、大人が子どものSNS・インターネットでのトラブルや問題行動を把握しにくくなっている。			

基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	1 家庭における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	P T A 育成及び活動事業	961	生涯学習課	A
事業の目的	園児、児童、生徒の健全育成のために保護者を対象に、家庭教育や人権教育、学校・園と地域との連携について研修を深め、家庭や地域の教育力を高める。また、学校・園同士の交流を深めることによって、それぞれのP T Aが抱える課題を共有し、解決策を見つけるきっかけにする。			
事業の概要	講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育の研修会実施、食育や防災等に関する研修会の実施。県や近畿、日本P T A研修会への参加、スポーツ大会の実施、合唱祭の実施等への報償金・消耗品・会場借上費用の支出事務を行う。また、和歌山市公立幼稚園P T A連合会、和歌山市小学校P T A連合会、和歌山市中学校P T A連合会、和歌山市立和歌山高等学校育友会に対する補助金に関しては概算払いで支出している。			
成果	研修会9回、研修会及び交流事業に86校園が参加。家庭教育や人権教育、家庭における教育力の向上等、P T A同士が交流を深めることにより、それぞれが抱える課題を共有し、課題解決に向かうきっかけとすることができた。			
課題	社会全体の流れや生活様式の変化により、教育に関する課題が多様化・複雑化し、家庭や地域の教育力の向上がこれまでより一層重要となっている。各P T A連合会の取組への参加者が固定化しているきらいがあるなど教育への関心についても偏りが見られる。各連合会による社会や会員のニーズに応じた取組の工夫をしたり、広報等のつながりによる周知を図ったりする等、会員相互の啓発がより望まれる。			



基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	1 家庭における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	放課後児童健全育成事業（若竹学級）	416,955	青少年課	B
事業の目的	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とする。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数が概ね40人を1学級の単位としている。</li> <li>・放課後児童支援員及び補助員を1学級あたり2名以上配置（内1名は資格を有する放課後児童支援員。また、配慮を必要とする児童がある場合などに加配）。</li> <li>・放課後に、児童が宿題をしたり、おやつを食べたり、遊んだりする居場所となる。</li> <li>・利用料は月額4千円で、経済的困難その他の事情により減額・免除の制度がある。</li> <li>・平日は午後6時30分まで、第2第4土曜は午前8時から午後5時まで、夏休みなどは午前8時から午後6時30分まで開級。</li> <li>・場所は小学校内の余裕教室を主に使用。</li> </ul>			
成果	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることができた。			
課題	若竹学級に従事する職員の人員の不足、運営の質の改善について課題を残している。			

基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	1 家庭における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	放課後児童健全育成事業（民間保育園）	31,259	青少年課	B
事業の目的	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に、民間保育園に委託し、その施設を利用することにより適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とする。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数が概ね40人を1学級の単位としている。</li> <li>・放課後児童支援員及び補助員を1学級あたり2名以上配置（内1名は資格を有する放課後児童支援員。また、配慮を必要とする児童がある場合などに加配）。</li> <li>・放課後に、児童が宿題をしたり、おやつを食べたり、遊んだりする居場所となる。</li> <li>・利用料や時間は園ごとに異なる。</li> <li>・場所は11箇所の放課後児童健全育成事業の実績のある保育所。</li> <li>・多様な利用者支援のニーズに対応するため、事業を民間保育園に委託。</li> </ul>			
成果	保護者が労働等により昼間家庭にいない、小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることができた。			
課題	研修等により指導員のさらなる質の向上を図る必要がある。			

基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	2 地域における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	完全学校週5日制対策事業	10,839	生涯学習課	A
事業の目的	完全学校週5日制に伴い、原則長期休業を除く土曜日の午前中、地域で子どもを育て「生きる力」育成のため、スポーツ体験や文化体験などの豊かな体験活動と補充・発展学習の場を提供する。			
事業の概要	各小学校区子どもセンターを当該小学校に置き、保護者、地域各種団体の協力を得て、事務局と運営委員会を設置する。休業土曜日を利用して、子どもたちに様々な活動や体験をする機会を与える。また、希望する子どもセンターには、学力向上プログラムとして土曜教室を開設し、年間20日程度、非常勤講師を派遣し、児童を指導する。			
成果	子どもセンター活動（体験活動、伝統文化、学習等）の実施回数が911回、延べ47,743人の参加により様々な活動、体験をする機会を提供することができた。			
課題	小学校区子どもセンターにより運営面を担う人材の確保の難しさがある。また、運営に関わる大人が成果に対して「参加者が思うように集まらない」「活動がマンネリで新しいプランがない」と自信をなくしている面も見受けられる。人的、金銭的、時間的等に低コストな取組事例を調査研究、開発したものを各子どもセンターで共有し、地域、保護者を巻き込んだ取組とする。情報共有の場として運営委員長会議を活用すると共に、機会を捉え各子どもセンター関係者と情報交換を行う。大人や子どもの地域ボランティア等を発掘し、積極的に活用するなど、それぞれの地域の実情に応じて取組の工夫することは可能であると考えられる。			

基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	2 地域における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	きのくに共育コミュニティ推進事業	1,547	生涯学習課	A
事業の目的	学校・家庭・地域の連携を強化し、地域社会全体の教育力向上を推進する。			
事業の概要	子供を中心に学校、家庭、地域が連携・協働し、共に育ち、育て合う関係（地域コミュニティ）の育成を目指している。各地域共育コミュニティに学校と地域をつなぐ役割として地域共育コーディネーターを配置し、学校支援活動の企画、調整を行い、地域住民が学校支援活動にボランティアとして入ることを促進する。平成20年度に西浜地域、西脇地域、平成24年度に鳴滝地域、平成27年度に貴志地域に地域共育協議会を設置し、取組を進めている。			
成果	学校支援に対して様々な取組の工夫がなされている。登下校時の見守り活動、花壇整備・校内美化、地域防災講座の開催、ゲストティーチャーとして地域の歴史講話や校区探検の引率補助など、平成28年度には4地域で延べ12,000人の地域ボランティアが関わっている。子供に地域住民の関わる機会が増えたことで「子供と挨拶をするようになった」「教員と地域住民の対話が増えた」等の効果が報告されている。			
課題	地域共育コーディネーターを中心に、地域住民に共育コミュニティ推進について周知を図ると共に、ボランティアのさらなる育成を図ること。また、地域共育コーディネーター間で連携を図り、情報交換を行うなどコーディネーターの資質向上を図ること。実績をもとにした情報発信を行い、市内各地域へ共育コミュニティを広げていくこと。			



基本方針	Ⅳ 家庭や地域における教育力の向上			
基本目標	7 人格形成の基礎となる家庭教育力、地域文化の基盤となる社会教育力の創造			
基本施策	2 地域における教育力の充実			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	各地区青年団体支援事業	1,037	青少年課	B
事業の目的	青少年の育成を目的とした団体を育成・補助することで、和歌山市の青少年の健全育成及び青少年教育を発展させることを目的とする。			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーイスカウト和歌山地区協議会</li> <li>・ガールスカウト和歌山地区協議会</li> <li>・和歌山市青年団体協議会</li> </ul> 上記、各団体の主催する事業に対する支援及び補助			
成果	青少年の育成の活動を行っている各団体への支援及び補助により、青少年の健全育成及び青少年教育の発展に効果をあげた。			
課題	子供の減少や地域社会の人間関係の希薄化等により団体規模が小さくなっていることが課題。			

基本方針	Ⅴ 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興			
基本施策	1 生涯学習の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	生涯学習推進事業（生涯学習推進協議会、生涯学習推進員、生涯学習人材バンク登録など）	1,140	生涯学習課	A
事業の目的	生涯学習の総合的かつ効果的な推進を図るため協議会を設置し、推進方策やその他生涯学習に対して協議し、生涯学習の振興を図る。			
事業の概要	生涯学習の総合的かつ効果的な推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習推進協議会の開催</li> <li>・生涯学習推進員の研修会開催</li> <li>・生涯学習情報の収集・提供</li> </ul>			
成果	生涯学習推進協議会、生涯学習推進員研修会等を開催することができ、また生涯学習人材バンク登録者数も増え、生涯学習の推進を図ることができた。			
課題	市民の主体的な学習意欲に応える生涯学習の支援の充実が必要になっている。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興			
基本施策	1 生涯学習の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	社会教育運営事業	3,231	生涯学習課	A
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員により和歌山市の社会教育の在り方を審議し、市民にとってより良い社会教育を構築する。</li> <li>・社会教育指導員による市民集会等での指導により、人権問題等の改善を図る。</li> <li>・教育財産として所有する打越山の維持管理。</li> </ul>			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員定例会議を開催する。</li> <li>・社会教育指導員を市民集会等に派遣する。</li> <li>・打越山の草刈等を実施する。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員定例会議を3回開催し、年間事業計画の審議、社会教育団体への補助金の審議、各種研修会への参加、及び社会教育指導員による指導等が行なわれた。</li> <li>・打越山の草刈を実施した。</li> </ul>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打越山について、教育施設としての目的がないとの指摘を踏まえ、市長部局と協議し、「用途廃止」の手続きを得て、市長部局への移管を行い、自然公園として、また地域の憩いの場、緊急時の一時避難場所として活用できればと考えている。</li> <li>・打越山は、津波避難目標地点に指定されている。（和歌山市防災マップ）</li> </ul>			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興			
基本施策	1 生涯学習の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	婦人団体育成事業	2,195	生涯学習課	A
事業の目的	<p>社会の変動に対し活動することのできる女性団体を育成し、明るく住みよい社会の実現を目指して、地域での活動を進める。</p>			
事業の概要	<p>和歌山市婦人団体連絡協議会に婦人団体育成事業を委託。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会の実施</li> <li>・婦人大会の開催</li> <li>・婦人総合体育大会の開催</li> <li>・地域別市民運動実践活動の実施</li> <li>・女性学級の実施等</li> </ul>			
成果	<p>和歌山市婦人団体連絡協議会に育成事業を委託し、研修会や女性学級等様々な活動を通してリーダーを育成し、女性の資質や能力の向上に努めることができた。</p>			
課題	<p>婦人団体が高齢化してきている。</p>			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興		
基本施策	1 生涯学習の推進		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	和歌山市教育・学びあいの日制定事業	256	教育政策課 学校教育課 生涯学習課
事業の目的	教育に対する市民の意識と関心を高めるとともに、学校、家庭及び地域が連携し、子どもが輝き、文化が薫る教育のまちの実現に向け、共に学びあい、市民全体で教育に関する取り組みを推進することを目的とする。		
事業の概要	毎年、11月を「和歌山市教育・学びあい月間」として、学校、教育に関する機関及び団体並びに市民等との連携・協力を得て、さまざまな取り組みを推進するとともに、広く市民への普及を図る。		
成果	教育政策課、学校教育課、生涯学習課の3課により記念講演を開催（11月19日）し、学力向上の機会を提供できた。※H28の担当は学校教育課		
課題	より多くの人に参加してもらえるように、企画・広報等を工夫する必要がある。		

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興		
基本施策	1 生涯学習の推進		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	コミュニティセンター管理運営事業	362,706	生涯学習課
事業の目的	市民の生涯学習、文化、地域活動の振興及び図書室の利用で、生活の向上、自己の充実をめざし、各人が自発的意思に基づいて学習できるようにする。		
事業の概要	生涯活動の場として各種の講座を開設し、市民の学習活動を支援。 文化活動及び地域活動の場として、自主団体に会場を貸出。 市民図書館とネットワークを組み、資料の貸し出しなど図書室を運営。		
成果	市民の生涯学習、文化、地域活動の振興及び図書室の利用で、生活の向上、自己の充実をめざし、各人が自発的意思に基づいて学習が行われた。		
課題	コミュニティセンターの経年劣化による修繕が増加している。 また、全ブロックにコミュニティセンターを設置できていない。		

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興			
基本施策	1 生涯学習の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	図書館施設管理事業	289,077	市民図書館	B
事業の目的	図書館施設を適正に維持管理し、図書館利用者に安全・安心かつ快適な環境を提供していく。図書館サービスを効果的・スピーディに行うための図書館システムを構築・運用し、現代の高度情報化社会に対応しながら市民の高度な情報ニーズに応えるべく情報を収集・発信していく。			
事業の概要	<p>図書館内外の安全かつ快適な環境を維持するために諸施設の維持管理を行う。 警備業務を委託し館内外の安全を確保する。また、清掃、設備管理、電話保守等の委託により清潔で快適な環境を保つ。</p> <p>建物及び動産（図書）の火災保険、絵画損害賠償保険の契約を行う。</p> <p>図書館サービスを効果的にするための電算システムを構築し、情報の収集及び発信を効率的に行うWebサービスを展開する。</p> <p>図書館全域サービスの進展を図るため平成29年5月オープン予定の分館開館準備を行う。また、本館施設の老朽化のため新館建設移転準備等を行う。</p>			
成果	<p>図書館システムの運用によりWebサービスが充実し、図書の予約件数は1日平均約400件にのぼり利用者の利便性に寄与している。</p> <p>市民図書館西分館を含む複合施設「河西ほほえみセンター」の工事が完了し、郊外の図書館空白地域の解消に向け進展している。</p> <p>市駅前地区開発事業にかかる図書館新館の基本設計が完成し、市民の関心が集まっている。</p>			
課題	<p>施設・設備の老朽化に伴い突発的な改修・修繕が何度も必要となり、修繕費が増大、サービス運営にも支障をきたしている。</p> <p>新館の管理と運営について今後もさまざまな協議が必要である。</p>			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	8 生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興			
基本施策	1 生涯学習の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	図書館サービス運営事業	71,719	市民図書館	B
事業の目的	本館及び西分館及び移動図書館における図書館サービスを効率的に行うため、各種図書館資料の計画的な収集・充実を図り、これらを体系的に分類、整理、保存し、迅速・的確に提供する。			
事業の概要	<p>本館及び西分館及び移動図書館車の巡回による図書館サービスを行う。</p> <p>おはなし会、リトミック、折り紙教室などを定期的で開催し、子どもの読書のきっかけ作りと読書習慣を推進する。</p> <p>上映会、講演会、コンサート等の図書館行事を催し、市民の文化活動を奨励する。</p> <p>「図書館だより」「図書館からのお知らせ」を発行し、市民に図書館の利用を促す。</p> <p>図書館リサイクルフェアを実施し、資源の再利用を図る。</p> <p>和歌山市民図書館協議会を開催する。</p> <p>県公共図書館協会総会への館長の出席、同協会を通じて図書館を取り巻く情報等を収集し館の運営に活用する。</p>			
成果	<p>行事参加者は、4,239人にのぼり、団体貸出やレファレンスの利用も増加しており、多様なニーズへの対応を行っている。</p>			
課題	<p>今後もコミュニティーセンター図書室や分館、移動図書館との物流連携を図り、市全体の総貸出冊数の増加を目指す。</p> <p>ボランティアの方々と行事の企画や実施を協働で行い、新たな利用者層を掘り起こす。</p>			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	1 文化活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	文化団体活動支援事業	2,246	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市の文化振興を目的とする。			
事業の概要	各種文化団体の活動を支援するため補助金の交付を行う。			
成果	各種文化団体の活動を支援することを目的に、文化振興及び運営補助金として8団体、事業開催補助金として3団体に補助金交付を行い、文化団体の更なる活動の活性化に繋がった。			
課題	文化の振興や後継者の育成にかなった事業であるか検証していく必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	1 文化活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	文化表彰事業	1,618	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市の文化向上発展に特に顕著な功績のある個人又は団体に対し、和歌山市文化表彰規程の定めるところにより表彰を行い、更なる文化向上に寄与する。			
事業の概要	和歌山市の文化向上発展に特に顕著な功績のある個人又は団体に対し表彰を行う。文化表彰選考委員会の選考を経て市長が決定する。			
成果	文化賞1名文化功労賞2名文化奨励賞1名1団体を表彰し、市民のふるさとの誇りを高めることに繋がった。			
課題	文化表彰制度についての広報活動や情報収集など、今後もより多くの候補者の選定に努める必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	1 文化活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	南方熊楠生誕150周年記念事業	6,145	文化振興課	A
事業の目的	南方熊楠生誕150年を記念し、熊楠にちなんだ事業を行うことにより、偉人・南方熊楠を生んだ和歌山市を誇れる雰囲気醸成する。			
事業の概要	南方熊楠の生誕150年にあたる平成29年に市の功績を顕彰する事業を実施する。 （ロゴマークの作成、演劇公演「熊楠と孫文」の開催、説明看板の設置、小学生向け冊子の作成等）			
成果	事業を実施することにより、多くの市民に南方熊楠の功績を知ってもらうことができた。			
課題	平成29年度にはフィールドワークの開催、ゆかりの地マップの作成などを予定しており、更なるPRに努める必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	1 文化活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	和歌山市美術展覧会事業	3,335	文化振興課	A
事業の目的	和歌山市における美術工芸の振興と鑑賞愛好の精神を高め、市民の文化水準の向上を図るため、美術展覧会を開催する。			
事業の概要	洋画・日本画・書道・写真・彫塑・工芸・いけ花の7部門による公募の展覧会を開催する。			
成果	洋画・日本画・書道・写真・彫塑・工芸・いけ花の7部門の作品527点を部門別に審査し、市長賞をはじめとした6つの各賞を授与した。市民会館にて4会期に分けて展示した。また、各会期中には審査会委員によるギャラリートークを開催し、多くの来場者が訪れ、盛況に終わった。本市の美術文化の振興に寄与した。			
課題	展覧会の出展数が伸び悩んでいるため、学校等への働きかけを強化していきたい。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用		
基本施策	1 文化活動の推進		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	市民会館管理運営事業	207,538	文化振興課
事業の目的	市民会館を安全に利用できるように維持管理する。		
事業の概要	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団を指定管理者とし、会館の貸出業務、管理業務や自主事業を実施する。		
成果	施設利用者は235,211人、利用件数は2,194件。自主事業53を開催し、地域の文化の振興に寄与した。		
課題	建物の老朽化が進んでおり、指定管理者と協力しながら修繕等を行う必要がある。		

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用		
基本施策	1 文化活動の推進		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	和歌の浦アート・キューブ管理運営事業	48,578	文化振興課
事業の目的	和歌の浦アート・キューブを安全に利用できるよう維持管理する。		
事業の概要	公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団を指定管理者とし、会館の貸出業務、管理業務や自主事業を実施する。		
成果	施設利用者は38,869人、利用件数は2,867件。自主事業18を開催し、地域の文化の振興に寄与した。		
課題	利用者の拡大に努める必要がある。		



基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	1 文化活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	市民会館建設事業	15,876	文化振興課	B
事業の目的	老朽化が進む市民会館の機能を集約し、市民の芸術文化活動を発信する場として、また、賑わいの文化交流拠点として、新市民会館の整備を進める。			
事業の概要	伏虎中学校跡地に市民会館（仮称）市民文化交流センターとして、「地域交流センター（ホール機能）」と「まちおこしセンター（コンベンション機能）」を複合した施設として計画・建設する。			
成果	平成28年度は市民会館（仮称）市民文化交流センター建設に向けての基本計画を策定することができた。			
課題	事業費の財源の一部として国庫補助金の確保に努め市の負担軽減を図るとともに、市民が利用しやすい施設となるように事業を実施する必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	旧中筋家住宅公開事業	5,588	文化振興課	A
事業の目的	国指定重要文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。			
事業の概要	国指定重要旧中筋家住宅の維持管理及び運営			
成果	国指定重要旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行った結果、1,744人の観覧者があり、文化遺産の公開活用を図ることができた。			
課題	周辺の小・中学校への働きかけ等を積極的に行い、地域の歴史教材として活用する必要がある。			

基本方針	Ⅴ 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	文化財保護事業（文化財保護委員会など）	17,632	文化振興課	A
事業の目的	市内所在の文化遺産を適切に保存整備し、継承、活用を行う。			
事業の概要	文化財保護委員会を開催し、事業について指導を受けるほか、日常業務においても適宜助言を受ける。また、文化財保護委員会に諮問し、和歌山市指定文化財を指定する。文化財案内板の設置、文化財資料（実物資料・写真資料）の貸出等を行い文化財の活用を図る。			
成果	文化財保護委員会の開催（年1回）をはじめとして、文化財に関する説明板の設置（11件）、文化財資料の貸出（実物資料9件、写真資料22件）文化財の適切な維持管理などを行い、文化財の保護活用を図ることができた。			
課題	文化財案内板の設置を推進し、周知をはかる必要がある。			

基本方針	Ⅴ 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	国指定文化財修理修復補助事業	125	文化振興課	A
事業の目的	国指定文化財（名勝）である養翠園を適正に保存整備する。			
事業の概要	国指定文化財「養翠園」の保存修理への事業補助。傷みの見られる庭園の園路・池や建物の養翠亭を修理し、保存活用を図る。			
成果	国指定文化財「養翠園」のあやめ池の修繕に対して補助金を交付し、保存活用を図ることができた。			
課題	養翠園の敷地が広大であるため、長期にわたり事業を継続する必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	鳴神貝塚整備事業	206	文化振興課	B
事業の目的	国指定文化財（史跡）鳴神貝塚を適正に保存・整備する。			
事業の概要	民有地である対象地の公有化を進め、買収完了後に芝張りなどを行い、史跡公園として整備する計画であり、現在は土地購入を継続的に実施している。			
成果	土地購入交渉を継続しつつ、公有地範囲内の除草を実施し維持管理を行った。			
課題	対象の個人所有地の境界が未確定であったり、納税猶予地などがあるため、事業が長期にわたる可能性がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	湊御殿管理運営事業	13,057	文化振興課	A
事業の目的	市指定文化財（建造物）湊御殿を適正に維持管理する。			
事業の概要	市指定文化財（建造物）湊御殿の維持管理（庭園・建造物・付属トイレ）。観覧料及び施設使用料の徴収。			
成果	市指定文化財（建造物）湊御殿を一般公開するため管理運営を行った結果、6,756人の観覧者があり、多くの方々に歴史資料を公開することができた。			
課題	養翠園とともに見学してくれる入場者が急増したため、今後、畳やふすまの傷みが進行する可能性が高く、維持管理経費の増大が見込まれる。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	車駕之古址古墳公園管理事業	3,407	文化振興課	A
事業の目的	県指定文化財（史跡）車駕之古址古墳公園を適正に維持管理する。			
事業の概要	公園内の草刈り、樹木管理、清掃などの維持管理事業を行う。周辺の小学校5～6年生の社会科授業として現地説明会を開催し、郷土の歴史資料として活用する。学習効果を高めるために古墳上の景石を継続的に古墳外へ移設している。			
成果	草刈り・清掃などの維持管理を行い、古墳公園として小学生を対象とした説明会を実施し学習効果を高めることができた。古墳の景石9個を移転した。			
課題	管理面では、夏期を中心に、雑草が多く生え、維持費が負担となりつつある。活用面では、地元NPOと共同して事業を企画していく必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化の振興と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	第一・第二特別展開催事業	7,915	博物館	B
事業の目的	貴重な資料を全国から借用して特別展を開催し、郷土和歌山の歴史と文化財を紹介することにより、市民文化の向上を図る。			
事業の概要	第1特別展は「城下町和歌山の絵師たち」と題して、近世に和歌山で活躍した絵師106人の作品と関連資料を展示し、城下町では様々な学問や文化が花開いていたことを明らかにした。第2特別展は「玉津島一衣通姫と三十六歌仙」と題し、和歌浦の玉津島神社に伝来する宝物・資料を一堂に展示し、玉津島神社と和歌浦の歴史を紹介した。			
成果	ふだん見ることのできない資料を市民の方々に見てもらうことができた。城下町和歌山では江戸時代に100人を超える絵師たちが活躍していたことを知ってもらい、和歌山市の新指定文化財となった玉津島神社の資料群を紹介することができた。			
課題	市民の要望の高いテーマを反映させ展覧会の内容を充実させるとともに、インターネットを活用するなど、より多くの市民の方々に特別展の開催を周知していきたい。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	9 文化活動と文化財の保護・活用			
基本施策	2 文化財保護活動の推進			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	緊急発掘調査事業（埋蔵文化財発掘調査など）	122,927	文化振興課	A
事業の目的	埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を適正に保護する。			
事業の概要	埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内の土木工事に処して、確認調査・立会調査を実施、保護資料を作成する。発掘調査事業を企画し、専門団体に委託し、調査を行う。埋蔵文化財発掘資料を管理する。			
成果	遺跡範囲かどうかの確認対応を36件について行い、発掘調査が必要な19件について調査を行い、文化財の記録保存を行うことができた。			
課題	東日本大震災以降に地盤改良工事が激増し、それに比例して、遺跡の確認・立ち会い調査、本調査件数が激増している。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	スポーツ推進委員との連携事業	1,407	スポーツ振興課	B
事業の目的	和歌山市の事業への協力及び各地区でのスポーツの振興を進めているスポーツ推進委員との連携強化に努めるとともに、スポーツ人口の増加、振興を図る。			
事業の概要	地域スポーツの振興及び普及のため、指導や助言をおこない、地域住民のスポーツへの関心を高める活動をおこなっている。 また、共催事業として、年6回開催の「ふれあいスポーツ教室」及び元旦に開催する「新春つれもて歩こう走ろう会」の企画運営をおこなう。協賛事業として、和歌山市主催の「健康ウォーキング」や「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」への運営協力をおこなっている。			
成果	スポーツ推進委員については、地域のスポーツのための活動や、市主催の新春つれもて歩こう走ろう会や、和歌浦ベイマラソンの協力、またニュースポーツに親しむ機会を与えることができた。			
課題	ふれあいスポーツ教室の参加者の獲得のため、新たな種目のニュースポーツを取り入れるなどの協議、検討をする必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	10 スポーツの振興		
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	スポーツ教室開催促進事業	164	スポーツ振興課
事業の目的	地域間、住民間の親睦、交流を深めながら、スポーツの振興を図るため、各地域に即したスポーツ教室や、スポーツ大会を開催する。		
事業の概要	地域間、住民間の交流を深めるため、各地域に即したスポーツ教室や、スポーツ大会を開催するにあたり、委託料を支出し、各地区に業務を委託している。		
成果	各地域に即したスポーツ教室、スポーツ大会等を開催することで、地域住民の親睦・交流が図れ、地域スポーツの振興が図られた。		
課題	各地域において、例年、同様のスポーツ教室やスポーツ大会が実施され、住民間の親睦が図られている。限られた予算の中で、新たな取り組みは難しいと考えられるが、地域の子供から高齢者まで、より多くの住民が参加できる教室等を検討する必要がある。		

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	10 スポーツの振興		
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	学校体育施設開放事業	7,449	スポーツ振興課
事業の目的	小・中学校体育施設（グラウンド・体育館）を、野球・ソフトボール・サッカー等の使用目的のある生徒、その他の一般市民に貸し出すことで、スポーツの振興に寄与し、市民の健康保持増進と、スポーツ人口の増加を図ることを目的とする。		
事業の概要	ナイター施設の管理に係る光熱水費、修繕費の支出や、学校体育施設開放に要する費用を支出している。		
成果	地域の人々の余暇活動として、スポーツができる環境を提供することにより、市民の誰もがスポーツを楽しむことができ、地域スポーツの振興が図れた。		
課題	学校体育館及びグラウンドを利用する団体は、非常に多く、地域スポーツの振興や、余暇活動の場として、広く市民が利用することで、親睦が図られているが、利用団体が多くなることで、マナーを守らない団体も一部見受けられる。		

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	各種競技団体との連携事業（スポーツ交流大会、ジュニアサッカー教室など）	2,804	スポーツ振興課	B
事業の目的	和歌山市体育協会や、和歌山市スポーツ少年団などの様々な競技団体と連携を密にすることで、市民がスポーツに接する機会を与え、スポーツ人口の増加を図ることを目的とする。			
事業の概要	スポーツの振興及びスポーツ人口の増加を目指し、和歌山市体育協会やスポーツ少年団などの様々な競技団体が実施するサッカー教室や生涯スポーツ交流大会、卓球大会等に補助金等を支出している。			
成果	各種競技団体と連携した、生涯スポーツ交流大会や、人気のジュニアサッカー教室、また障害者と健常者が一緒に行う障害者卓球大会を開催することにより、青少年の育成やスポーツの振興、普及に寄与した。			
課題	各種競技大会の参加者の確保のため、市民への周知方法、競技種目の変更や追加を検討、競技する必要がある。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	スポーツ拠点づくり推進事業（JOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップの開催）	4,000	スポーツ振興課	A
事業の目的	財団法人地域活性化センターの助成金活用事業で、平成20年度に、「U-12セーリングチャンピオンシップ」がスポーツ拠点づくり推進事業として認定された。 この事業は、小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に実施しようとする市町村とスポーツ団体の取り組みを支援することで、青少年の憧れ、目標とするスポーツごとの拠点を形成し、スポーツ振興と地域の再生を促進することを目的とする。			
事業の概要	スポーツ拠点づくり推進事業を継続し、和歌山市が支援、後援をしていく中で、「和歌山セーリングチャンピオンシップ実行委員会」に対し、大会が円滑に行えるよう運営経費の一部を補助金として支出している。			
成果	競技団体と連携し、JOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップを開催することで、和歌山市の知名度の向上、青少年の健全育成やスポーツの振興、普及に役立った。 また、本市の地域活性化にも寄与できた。			
課題	この全国大会は、（一財）地域活性化センターの拠点づくり推進事業助成金を、大会運営の一部に充てているが、助成期間が平成29年度で終了となるため、平成30年以降の運営等について協議、検討が必要となる。			



基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	つつじが丘テニスコート管理運営事業	55,480	スポーツ振興課	B
事業の目的	市立つつじが丘テニスコートの管理運営業務を、指定管理者が自ら創意工夫し、利用者サービスの向上や利用率の向上を図る。 また、利用料金制を採用することで、利用料金収入は指定管理者の収入となり、民間企業のノウハウを最大限に活かし、利用率の向上に努める。			
事業の概要	つつじが丘テニスコートの指定管理者に対し、管理運営に係る経費の一部を支出する。			
成果	平日は一般市民の利用や、学校の部活動での利用、また、土日は、テニス大会等が開催された。また、指定管理者の自主事業としてテニススクールも開催され、テニス競技の普及、発展に寄与できた。 大学や社会人のテニス合宿も行われ、県内外からの利用促進にもつながった。			
課題	今後、大規模な大会を誘致するにあたり、駐車場不足や観客席屋根の問題をクリアしていかなければならない。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	体育施設予約システム整備・運用事業	748	スポーツ振興課	A
事業の目的	体育施設予約システムを運用することで、市民サービスの向上並びに施設の稼働率アップを図る。			
事業の概要	体育施設予約システムを運用することで、施設窓口に出向くことなくスムーズに施設予約をすることができ、利用者に対する利便性の向上や市民サービスに繋がる。また、施設の稼働率アップにも役立つ。			
成果	施設利用者が、体育施設予約システムを活用することで、利便性が向上し市民サービスの向上が図られた。			
課題	さらなる稼働率アップや利便性向上のため、市民に対し、予約システムを周知することが必要である。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	体育館管理運営事業	98,067	スポーツ振興課	B
事業の目的	市立体育館（市民体育館・松下体育館・河南総合体育館）の管理運営業務を、指定管理者が自ら創意工夫し、利用者サービスの向上や、スポーツの振興、地域福祉の増進を図ることを目的とする。			
事業の概要	市立体育館の指定管理者に対し、管理運営に係る経費を支出する。 また、体育館の管理運営に必要な消耗品や、庁用器具及び維持修繕に要する費用を支出する。			
成果	各種スポーツ教室や大会の会場として利用され、市民の健康と体力づくり及び相互の親睦に役立った。			
課題	施設の老朽化が進んでおり、修繕費用の増加が見込まれるため、適正な維持管理を行うための施策が必要である。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興			
基本目標	10 スポーツの振興			
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用			
	事業名	決算額（千円）	担当課	担当課評価
	市民スポーツ広場管理運営事業	17,019	スポーツ振興課	B
事業の目的	市民スポーツ広場の管理運営業務を、指定管理者が自ら創意工夫を活かし、利用者サービスの向上や、スポーツの振興、地域福祉の増進を図ることを目的とする。			
事業の概要	市民スポーツ広場の指定管理者に対し、管理運営に係る経費を支出する。 また、市民スポーツ広場の管理運営に必要な庁用器具や維持修繕に係る費用の支出、災害時の撤去訓練に要する委託料を支出する。			
成果	市民スポーツ広場を常に良好な状態に保つことにより、各種スポーツ大会や競技大会及び学校等の運動会に開放することができた。			
課題	施設の老朽化が進んでおり、修繕費用の増加が見込まれるため、適正な維持管理を行うための施策が必要である。			

基本方針	V 生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
基本目標	10 スポーツの振興		
基本施策	1 生涯スポーツの振興と余暇の有効活用		
	事業名	決算額（千円）	担当課
	市民温水プール管理運営事業	96,740	スポーツ振興課
	担当課評価	B	
事業の目的	市民温水プールの管理運營業務を、指定管理者が自ら創意工夫し、利用者サービスの向上や、スポーツの振興、地域福祉の増進を図ることを目的とする。		
事業の概要	市民温水プールの指定管理者に対し、管理運営に係る経費を支出している。また、市民温水プールの庁用器具、維持修繕等に要する費用を支出している。		
成果	市民のレクリエーション、体力づくり及び各種競技大会の場として活用を図ることにより、市民の利用に投資することができた。		
課題	市民温水プールは、建設から30年以上経過しており、老朽化が進んでいることから、温水プールを早急に整備し、施設利用者が安心、安全に利用できるようにする必要がある。		

## 2 和歌山市教育委員会事務評価委員会評価

### <対象とする事務事業：8事業>

#### 評価項目

教育委員会の権限に属する事務事業のうち、教育行政の推進上重要な施策のうち、次の8事業を評価対象事業として評価を実施いたしました。

事務事業	担当課	事業概要
①市民マラソン(和歌浦ベイマラソン with ジャズ) 開催事業	スポーツ振興課	和歌浦ベイマラソン with ジャズ実行委員会の開催に係る会場借上料の支出や、ベイマラソンの運営に係る経費に対して、実行委員会に補助金を支出する。
②生徒指導補助員配置事業	教職員課	各学校の事情により必要性のある学校に、主に「生徒指導」の面から学校現場をサポートする役割を担う非常勤職員（生徒指導補助員）を配置する。生徒指導補助員は、児童生徒の問題行動に対して、緊急対応を行ったり、発達障害等により個別の支援が必要になった子どもたちを総合的に支援し、生活や学習上の困難を改善する補助を行う。
③発明創作事業	学校教育課（子ども科学館）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の改善に役立つものや工夫、アイデアの詰まった作品を募集し、市民の発明や工夫に対する関心を喚起するため、市民発明くふうコンクールを実施する。</li> <li>・夏休みに、子ども創作教室を4教室開催し、ものづくりを通じ、ものづくりへの関心や興味の普及を図るために、各教室とも1つの作品をつくり完成させる。</li> <li>・親子でペットボトルロケットを作成し、実際に打上げ距離などを競う親子ペットボトルロケット工作・打上大会を開催する。</li> <li>・子どもたちにもものづくりの現場を見学してもらい、ものづくりに対する楽しさや興味の普及を図るため、企業見学バスツアーを開催する。</li> <li>・子どもたちに一年間さまざまな作品づくりに挑戦させることで、創造性豊かな人材の育成を目指して活動している「少年少女発明クラブ」に対して補助金を交付する。</li> </ul>

事務事業	担当課	事業概要
④教育調査研究事業 (地域先達活用事業)	教育研究所	研究校(小学校)を指定し、地域先達が学校で教育活動を支援する。地域への愛情や、帰属意識・自尊心を高め、意欲的に学ぶ態度を身につけさせる。
⑤特別支援教育就学奨励費交付事業	学校教育課	特別支援学級在籍児童生徒について、世帯の収入額が必要額(需要額とは厚生労働大臣が定める基準額)の2.5倍未満となる者に、学用品費、給食費及び修学旅行費の経費の一部を支給する。また、和歌山市に住所を有する和歌山県立及び和歌山大学附属の特別支援学校在籍児童生徒に交付金を支給する。
⑥真舟芸術振興基金事業	文化振興課	書道講習会事業 著名な書道家の指導により、「かな書道」を正しく理解し、表現力や創造力を培うことを目的とした講習会を開催し、その成果を展覧会の形で発表する。 若手芸術家育成事業 和歌山市の芸術文化振興と若手芸術家の育成をはかる。 子ども和太鼓ワークショップ事業 子ども達に和太鼓の鑑賞や実演する機会を提供することで、日本の伝統文化の継承等を図る。
⑦青少年育成市民会議事業(子どもなかよしまつり、少年のつどいなど)	青少年課	・顕彰事業(青少年育成功労賞) ・「少年のつどい」の開催 ・「親子七夕のゆうべ」の開催 ・「親子ハイキング」の開催 ・「子どもなかよしまつり(同時開催:和歌山音楽大行進)」の開催 ・少年メッセージ和歌山市発表大会 ・「わく!わく!ケーキづくり教室」の開催 ・夏の子どもを守る運動の展開(参加) ・青少年健全育成強調月間県民大会(参加)
⑧公民館活動事業(成人祝賀式事業)	生涯学習課(中央公民館)	はたちのつどい(成人式)を開催する。



## 平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

<b>心都市の状況</b>	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等) 「高槻シティハーフマラソン」は、ハーフ4,000人、10 <sup>キ</sup> 2,000人、5 <sup>キ</sup> 800人、3 <sup>キ</sup> 1,200人の合計8,000人であり、本市のベイマラソンは約10,000人～12,000人で参加者数は本市の方が多し。両市で選手交流も深めている関係でもあり、本市大会は和歌浦の景観やジャズ音楽との融合の大会であり、高槻市からは魅力ある大会との評価も頂いている。(高槻市人口:353,712人)	未実施都市の有無 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">有</div> ・ 無
---------------	--	---

妥当性評価(事業ニーズはあるか) <input type="checkbox"/> 増加している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	妥当性評価(事業手段は妥当か) <input type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
妥当性評価(官民の役割は妥当か) <input type="checkbox"/> 市が行うべき <input checked="" type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか) <input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
有効性評価(更に効果が期待できるか) <input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	有効性評価(成果目標ほどの程度達成しているか) <input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成(70～90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
有効性評価(上位施策への貢献度) <input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	効率性評価(事業費を抑制できるか) <input type="checkbox"/> できない <input checked="" type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる
効率性評価(受益者負担の見直し) <input type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input checked="" type="checkbox"/> 見直しが必要	

廃止又は休止した場合の影響	この大会は、走ることと音楽を通じて、市民の健康増進や世代をこえたふれあいと交流の場であり、親子や仲間での参加や県内外から多くの方が参加するイベントとして定着しているため、廃止の場合、市民のスポーツへの意欲や意識の向上に支障をきたすことが懸念されるため、影響は大きいと考えられる。
---------------	---

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実	○		
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実	○		
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	10,000人以上が参加する本市最大規模のスポーツイベントである「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」は市民のスポーツ意欲や意識向上への核として位置づけており、親子の触れ合いなどの大切さを実感できるようなイベントとして、また、健康志向の人や競技目的の人など県内外から参加した人たちが和歌浦の景色を堪能し、ジャズの音色で楽しく走れるマラソンであり、市の施策としても重要かつ高い貢献をしている事業のため、参加者に喜んでもらえるよう充実を図っていきたいと考えている。
----------	---

見直し・改善(案)	近年、多くのマラソン大会が開催されており、参加者を減らさないためには、参加賞や会場イベントを充実させる必要があると考えている。参加料の増額は、参加者減につながることも考えられるが、参加料の見直しなども視野に入れ、充実した大会となるよう検討する必要があると考える。
-----------	---

事務評価委員会意見	○企業からの協賛金や、商品の提供を積極的に取り入れるなど、産業や観光面からも事業内容の充実を図る必要がある。 ○参加者が減っている原因を把握した上で、参加料を見直すことも考えなければならないのではないか。また、小学生・中学生の参加料を軽減し、大人の参加料を見直すなど、教育委員会としての配慮を取り入れてはどうか。 ○混雑の解消や安全対策についても、改善が必要ではないか。
-----------	---



平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ②生徒指導補助員配置事業

所 管	教育委員会事務局	学校教育	教職員	
位置づけ	基本方針	社会を生き抜く学力の育成		
	基本目標	確かな学力を育む教育の推進		
	基本施策	学校の組織力と教職員の指導力向上		
	根拠法令及び個別計画	第5次和歌山市長期総合計画、和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略		
関連課・関連事業				
事業実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】			

事業期間	開始年度	平成24年度	終了年度	
事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
	小・中・義務教育学校の教員及び児童生徒	教員が、児童生徒によりきめ細かく対応できる時間を確保することで、小中学校における生徒指導、学習環境整備、個別指導を充実する。		
事業の内容	各学校の事情により、必要性のある学校に、主に「生徒指導」の面から学校現場をサポートする役割を担う非常勤職員(生徒指導補助員)を配置する。生徒指導補助員は、児童生徒の問題行動に対して、緊急対応を行ったり、発達障害等により個別の支援が必要になった子どもたちを総合的に支援し、生活や学習上の困難を改善する補助を行う。			

事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
29年度当初予算	31,268				105	31,163	8,518	39,786	1.07	0
28年度決算	33,931				131	33,800	8,518	42,449	1.07	0
27年度決算	33,810				167	33,643	2,898	36,708	0.39	0
29年度当初予算 主な内訳(千円)	共済費 4,369千円、賃金 26,296千円、旅費 603千円									

活動指標	指標名	単位		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	生徒指導補助員配置数 (目標:予算ベース、実績:実雇用数)	人	目標		17	15	20	20	18	35	教育振興基本計画中に数値設定 各校からの要望数と過去の配置実績数から設定
			実績		23	26	32	32			
			達成率		135.29%	173.33%	160.00%	160.00%	0.00%		
指標名	単位		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
		目標									
		実績									
		達成率									

成果指標	指標名	単位		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	ヒアリングにより「配置してもらって良かった」と答えた学校数	校	目標		22	24	27	26	18	配置校 全校	学校訪問や活用状況報告書から人員配置による効果の有無を確認し、事業そのものの必要性を検証するため。
			実績		22	24	27	26			
			達成率		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%		
指標名	単位		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
		目標									
		実績									
		達成率									

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市47市(和歌山市を除く。)に聞き取り調査を行った結果、生徒指導・生活指導の面に特化した教職員の配置を行っているとの回答を、21市から得た。 各自治体により、学校数や児童・生徒数等の状況が様々であるため、当該職種に求める勤務内容の詳細や勤務条件の優劣等を一律に比較することは困難であるが、ALTや学校司書、特別支援学級担当の支援員・介助員以外にも、生徒指導・生活指導の改善を目的とした人材の配置を行っている自治体は、決して少なくないとする。	未実施都市の有無  ○ ・ 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input type="checkbox"/> できない <input checked="" type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響	近年、問題行動の低年齢化や複雑化の傾向がみられ、初期対応の不具合が問題解決の遅延を生むケースが多い。問題行動の発見や未然防止においては、マンパワーによることが多く、生徒指導面で補助的な役割を担える生徒指導補助員の必要性は高い。事業を廃止した場合、問題発生リスクは、当然上がるものとする。
---------------	---

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	学校現場では、問題行動等の発生件数は依然として多く、多岐にわたっており、担任だけでは対応が難しくなっている。また、教職員の若年層増加による経験不足が生じている等の課題が混在しており、その対応の一つとして、学級において補助的な役割を担える「生徒指導補助員」の配置は重要な施策であるとする。 今年度は、小学校40校、中学校14校から生徒指導補助員の配置要望があった。 今後、事業の充実・拡大のためには、人件費部分(主に賃金及び共済費)のコストの増加が見込まれる。
----------	---

見直し・改善(案)	学校現場において、総合的な生徒指導が充実するよう、より一層、要望と実態に即した予算要求と職員の配置を検討する。
-----------	---

事務評価委員会意見	○中核市の中でも、生徒指導が充実し学力が高い市は、補助員の配置人数が多い傾向にある。和歌山市でも補助員の配置を増やし、子供が落ち着いて学習できるように学校環境を整えていただきたい。 ○小・中学校から配置の要望も多く、効果も期待できる事業である。配置を減らすことで学校環境の整備に影響があることを予算要求で示し、予算の拡大を求めている。
-----------	--

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ③発明創作事業

位置づけ	所 管	教育委員会事務局	局	学校教育	部	学校教育課(こども科学館)	
	教育振興基本計画における位置づけ	基本方針	豊かな心と健やかな体の育成				
		基本目標	豊かな心を育む教育の推進				
		基本施策	郷土を愛するふるさと教育の推進				
	根拠法令及び個別計画	和歌山市発明創作事業企画運営委員会条例、和歌山市発明事業振興基金条例、和歌山市子ども創作教室要綱 和歌山市民発明くふうコンクール要綱					
関連課・関連事業							
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】						

事業概要	事業期間	開始年度	平成24年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
		子供を中心とした市民	ものづくりを通じて、つくる楽しさ等を感じてもらい、創造性豊かな人材育成やものづくりへの関心や興味の普及を図る。		
事業の内容	市民の発明意識を高め、創造性豊かな人の育成を図るため、もの作りや発明に係わる事業を実施する。 ・日常生活の改善に役立つものや工夫、アイデアの詰まった作品を募集し、市民の発明や工夫に対する関心を喚起するため、市民発明くふうコンクールを実施する。 ・夏休みに、子ども創作教室を5教室開催し、ものづくりを通じ、ものづくりへの関心や興味の普及を図るために、各教室とも1つの作品をつくり完成させる。 ・親子でペットボトルロケットを作成し、実際に打上げ距離などを競う親子ペットボトルロケット工作・打上大会を開催する。 ・子供たちにもものづくりの現場を見学してもらい、ものづくりに対する楽しさや興味の普及を図るため、企業見学バスツアーを開催する。 ・子供たちに1年間さまざまな作品づくりに挑戦させることで、創造性豊かな人材の育成を目指して活動している「少年少女発明クラブ」を運営(協働)して補助金を交付する。				

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	29年度当初予算	11,869				1,456	10,413	2,649	14,518	0.14	0.42
	28年度決算	11,585				1,528	10,057	1,360	12,945	0.1	0.27
	27年度決算	11,068				1,374	9,694	2,385	13,453	0.1	0.47
29年度当初予算 主な内訳(千円)	委託料11,449千円、消耗品費70千円 等 (平成29年度当初予算)										

評価指標	活動指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		発明創作事業の参加者数	人	目標	340	340	340	340	488	488	488人はすべての事業が定員に達したときの値
				実績	360	405	478	513			
	達成率			105.88%	119.12%	140.59%	150.88%	0.00%			
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
			目標								
		実績									
		達成率									

評価指標	成果指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		事業参加者に対するアンケートにおいて「満足」又は「やや満足」と回答した割合		目標	100	100	100	100	100	100	事業内容の充実度が評価できる。
				実績	89	89	94	91			
	達成率			89.00%	89.00%	94.00%	91.00%	0.00%			
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
			目標								
		実績									
		達成率									

## 平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

<b>他都市の状況</b>	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	発明創作事業の主体である、発明くふうコンクールと少年少女発明クラブの開催について 48中核市のうち確認できたもの 少年少女発明クラブ(主催:国、県の発明協会)を共催の形で市が運営しているもの 10市 発明くふうコンクールを市(教育委員会、経済産業部)が主催しているもの 10市	未実施都市の有無  有 ・ <b>無</b>

<b>事業の点検</b>	妥当性評価(事業ニーズはあるか)	妥当性評価(事業手段は妥当か)
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか)	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度)	効率性評価(事業費を抑制できるか)
	<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる
効率性評価(受益者負担の見直し)		
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要		

廃止又は休止した場合の影響	当事業は、現在子ども科学館運営事業で取り組んでいる科学普及教室事業では実施できないような、より高学年向けのより高度な「もの作り教育、科学教育」を実施しており、和歌山市の子供に対する科学教育にとって大変有意義な事業である。廃止した場合、より高学年向けのより高度な「もの作り教育、科学教育」の機会が失われる。
---------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	発明くふうコンクールやペットボトルロケット工作打上大会、子ども創作教室等を行う当事業は「もの作り、科学」に係わる教育的意義があり、継続して行うべきである。また参加者は増加傾向にある。子ども創作教室においては、造花、電気、木工、皮工作、科学等の分野における高度な技能を持つ講師(囑託)に依頼することによって、より高度な「もの作り教育、科学教育」が実施できている。
----------	--

見直し・改善(案)	子ども創作教室は、子供の興味関心がより高まるように、また重複しないように、実施内容は毎年更新できるように努力している。
-----------	---

事務評価委員会意見	○職員の人員が不足していることによって、参加を希望する子供を全て受け入れることができない状況がある。学生や経験者等のボランティアを募ることで、興味を持った子供のニーズに応えられる環境作りを進めていただきたい。 ○経験を積んだ講師等の中に学生のボランティアに加わってもらい、積極的に運営に参加してもらうことで、バランスがよくなり、よりよい活動ができるのではないかと。
-----------	---



平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ④教育調査研究事業(地域先達活用事業)

位置づけ	所 管	教育委員会事務	局	学校教育	部	教育研究所	
	教育振興基本計画における位置づけ	基本方針	社会を生き抜く学力の育成				
		基本目標	確かな学力を育む教育の推進				
		基本施策	信頼と期待に応える学校づくりの推進				
	根拠法令及び個別計画						
関連課・関連事業	学校教育課 放課後フォローアップ事業		生涯学習課 共育コミュニティ推進事業				
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】						

事業概要	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
		児童	学校・地域ボランティアが相互に充足感をもちかかわることで、教育効果・学力向上を図る。		
事業の内容	小学校数校を研究校に指定し、地域ボランティアの方が学校で教育活動を支援していただく環境を創り、学力向上及び子どもの心の安定などの教育効果を期待する。				

事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
29年度当初予算	796	265				531	1,400	2,196	0.18	0
28年度決算	728	241				487	1,400	2,128	0.18	0
27年度決算	616	204				412	3,115	3,731	0.41	0

29年度当初予算 主な内訳(千円) 報償金20、消耗品費30、食糧費6、傷害保険料740

活動指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	地域先達活用人数	人	目標			50	60	150	200	指定校数を5校からはじめ、1校当たり10人程度のボランティア数を予定し取組を進めている。平成29年度の指定校数の目標を15校としているため、目標値は150となる。
			実績			46	117			
			達成率			92.00%	195.00%	0.00%		
指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		

成果指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	全国学力・学習状況調査学校質問紙「保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動による、学校の教育水準の向上への効果有り」の回答割合(和歌山市)	%	目標			25	40	50	50	平成27年度の全国平均値が49であることから50を全体目標に設定して、段階的に目標値を設定した。
			実績			26.4	35.8			
			達成率			105.60%	89.50%	0.00%		
指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	豊中市において同様の事業を実施している。「学校地域連携ステーション事業」とし、小学校27校(41校中)、中学校13校(18校中)で平成20年度から実施。	未実施都市の有無
			(有) ・ 無

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input checked="" type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響	この事業を通して、実施校においては地域と学校に今まで以上の関係の深まりが見えるようになっている。事業を廃止した場合、すでに構築した関係性の持続・発展が難しくなる。
---------------	---

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	平成28年度のモデル校での取組は、児童・保護者から高評価を得た。例えば指定校である高松小学校では学校評価アンケート「学校は開かれた学校づくりに努め、地域や保護者とのつながりを大切に、その力を子供の教育にいかしているか」の設定で、「まったくそう思う」という回答が、平成27年度36%から46%と上昇している。
----------	---

見直し・改善(案)	平成29年度は事業を拡大し、研究指定校を増やし、さらに教育実践を充実させる。平成29年度は指定校15校、ボランティア人数は1校あたり10人程度とし、150人を目標とする。また継続的な指定校については、実践内容が固定化しないように新たな取組を実施し、活動の活性化を目指す。
-----------	---

事務評価委員会意見	○学校教育を補足する上で、先達の知恵を地域の子供に伝えることは重要なことであり、教育的効果も高い事業である。また、先達を増やすことで、児童・生徒の問題行動を未然に防ぐことも期待できる。 ○まだ始めて間もない事業であるが、今後も全校へ広げていってほしい。活動を広げるためには、傷害保険料等活動費がかかるので、予算を増やせるよう取組を進めていただきたい。
-----------	--

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ⑤特別支援教育就学奨励費交付事業

位置づけ	所 管	教育委員会事務	局	学校教育	部	学校教育	課	
	教育振興基本計画における位置づけ	基本方針	社会を生き抜く学力の育成					
		基本目標	確かな学力を育む教育の推進					
		基本施策	信頼と期待に応える学校づくりの推進					
	根拠法令及び個別計画	就学援助交付金及び特別支援教育就学奨励費交付金交付要綱						
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】							

事業概要	事業期間	開始年度	平成6年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
		○特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者 ○特別支援学校に就学する児童生徒の保護者	就学の特殊事情にかんがみ、就学に係る経済的負担の軽減を図る。		
事業の内容	特別支援学級に在籍する児童生徒又は通常の学級で学ぶ児童生徒のうち、学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度に該当する児童生徒の保護者に、就学のために必要な経費(学用品費、校外活動費、新入学学用品費、修学旅行費、給食費)の一部を交付する。 また、和歌山市に住所を有し、和歌山県立及び和歌山大学附属の特別支援学校に在籍する児童生徒の保護者に交付金を支給する。				

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
	29年度当初予算	8,747	4,133				4,614	1,222	9,969	0.15	0
	28年度決算	9,471	4,250				5,221	1,296	10,767	0.16	0
27年度決算	8,093	3,582				4,511	1,236	9,329	0.16	0	

29年度当初予算 主な内訳(千円)	特別支援教育就学奨励費交付金 8,267千円 特別支援学校就学奨励費交付金 480千円
----------------------	--

活動指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	交付者数	人	目標						
			実績	461	530	563	618		
			達成率						
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠
			目標						
		実績							
		達成率							

成果指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠
	不就学者率	%	目標	0	0	0	0	0	
			実績	0	0	0	0		
			達成率	100%	100%	100%	100%		
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠
			目標						
		実績							
		達成率							



平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

他都市の状況	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	特別支援教育就学奨励費交付金の支給単価は、就学援助交付金の支給単価の1/2であり、本市の就学援助交付金の支給単価が、他の中核市や国基準に比べて低いため、特別支援教育就学奨励費交付金についても低い状況となっている。	未実施都市の有無
			有 ・ <b>無</b>

事業の点検	妥当性評価(事業ニーズはあるか)		妥当性評価(事業手段は妥当か)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している		<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要	
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)		妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている		<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い	
	有効性評価(更に効果が期待できるか)		有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)	
	<input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない		<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)	
	有効性評価(上位施策への貢献度)		効率性評価(事業費を抑制できるか)	
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い		<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる		
効率性評価(受益者負担の見直し)				
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要				

廃止又は休止した場合の影響	本事業は、障害のある児童生徒の保護者が負担する教育関係経費について、家庭の経済状況に応じ、国及び地方公共団体が補助する仕組みであるため、廃止はできない。
---------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実			○
	現状維持			
	縮小			
	廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	少子化に伴い、児童生徒の数は減少しているのに対し、本事業の対象となる児童生徒の数は年々増加していることから、事業を安定的に維持し、さらに充実させる必要があると考える。
----------	---

見直し・改善(案)	支給単価の引き上げに努め、保護者の経済的負担の軽減を図る。
-----------	-------------------------------

事務評価委員会意見	○少子化に伴い、児童・生徒が減少しているにもかかわらず、交付対象者が増えている。その原因や背景を担当課において分析した上で、適切など所に適切な配分ができるよう、引き上げに向けて取り組んでいただきたい。 ○他都市と比較しても、和歌山市は支給金額が少ないほうなので、障害等の状態に応じて支給金額を充実させてはどうか。
-----------	---

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ⑥真舟芸術振興基金事業

位置づけ	所 管	教育委員会事務 局 生涯学習 部 文化振興 課	
	教育振興基本計画における位置づけ	基本方針	生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興
		基本目標	文化の振興と文化財の保護・活用
		基本施策	文化活動の推進
	根拠法令及び個別計画	和歌山市真舟芸術振興基金条例、和歌山市真舟芸術振興補助金交付要綱	
	関連課・関連事業		
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【 】		

事業概要	事業期間	開始年度	平成18年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
事業の内容		和歌山市出身の書道家、故山本真舟氏の遺志により作られた「真舟基金」を活用し、平成18年度にスタートした事業である。 ・書道講習会事業 著名な書道家の指導により、「かな書道」を正しく理解し、表現力や創造力を養うことを目的とした講習会を開催し、その成果を展覧会の形で発表する事業 ・若手芸術家育成事業 和歌山市の芸術文化振興と若手芸術家の育成を図る事業 ・子ども和太鼓ワークショップ事業 子ども達に和太鼓の鑑賞や実演する機会を提供することで、日本の伝統文化の継承等を図る事業			

コスト	事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
			国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源				
	29年度当初予算	8,141				8,141		5,995	14,136	常勤 0.77	非常勤 0.57
	28年度決算	4,478				4,478		6,230	10,708	常勤 0.65	非常勤 0.48
27年度決算	7,223				7,202	21	5,345	12,568	常勤 0.57	非常勤 0.48	

29年度当初予算 非常勤報酬 1,764千円 報償金 1,700千円 子ども和太鼓ワークショップ開催委託料 1,390千円 若手芸術家育成補助金 800千円

評価指標	活動指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		講習会等開催回数	回	目標	7	7	7	7	7	7	子ども和太鼓ワークショップ年間5回、書道講習会年間夏・秋2回を目標に開催する。
				実績	8	5	7	7			
	達成率			114.29%	71.43%	100.00%	100.00%	0.00%			
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
			目標								
		実績									
		達成率									

評価指標	成果指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
		講習会等参加者数	人	目標	400	400	400	440	450	450	子ども和太鼓ワークショップ参加者年間335名→平成29年度350名を目指す。書道講習会 定員65名→100名を目指す。
				実績	570	420	416	405			
	達成率			142.50%	105.00%	104.00%	92.05%	0.00%			
	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		
			目標								
		実績									
		達成率									

## 平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

<b>他都市の状況</b>	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	<p>和歌山県 和歌山県ジュニア美術展覧会 和歌山県の若年層の作品発表の機会を増やすと共に、作品創出意欲を高め、次世代を担う芸術家の育成と和歌山県の美術文化の振興を図ることを目的に児童・生徒が作成する絵画や書、立体作品の作品の公募展を開催。</p> <p>尼崎市 ティーンズサポートチケット事業 13歳から19歳の方を対象に、尼崎市総合文化センターやピッコロシアターで開催される音楽や演劇などの芸術(各公演先着10名限定)をワンコイン(500円)で鑑賞できる。</p> <p>東大阪市 東大阪市民美術センター《若手アーティスト支援事業》企画展アーティスト募集 若手アーティストの作家活動を支援するために、作品発表を行う展覧会開催の機会を提供。</p>	未実施都市の有無  <span style="font-size: 2em;">○</span> 有 . 無

<b>事業の点検</b>	妥当性評価(事業ニーズはあるか)	妥当性評価(事業手段は妥当か)
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加している <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか)	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度)	効率性評価(事業費を抑制できるか)
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる	
効率性評価(受益者負担の見直し)		
<input checked="" type="checkbox"/> 適正 <input type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要		

廃止又は休止した場合の影響	次代を担う子供たちの伝統文化や芸術文化に触れる機会が減少する。 若手芸術家の活動や功績を広く伝える機会が減少する。
---------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実	/	/	○	/
	現状維持	/	/	/	/
	縮小	/	/	/	/
	廃止	/	/	/	/
	ゼロ	縮小	現状維持	拡大	
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実	/	/	○	/
	現状維持	/	/	/	/
	縮小	/	/	/	/
	廃止	/	/	/	/
	ゼロ	縮小	現状維持	拡大	
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	各事業の参加者からは概ね好評を得ており、一定の成果が表れている。次代を担う子供たちに伝統文化や芸術文化に触れる機会や若手芸術家の活動や功績を広く伝える機会を提供することは、本市の更なる文化振興に繋がることから、今後も引き続き更なる事業の充実に努めなければならない。
----------	--

見直し・改善(案)	書道講習会事業については、受講者の増加を目指し、また、講習会の成果発表の場としての展覧会を毎年開催することで、本市におけるかな書道の更なる振興に繋げる。 子ども和太鼓ワークショップ事業については、市内小学校を一巡することを目標に小学校に働きかけ、更に多くの子供たちに対し古来から伝わる伝統文化に触れる機会の提供に繋げる。 若手芸術家育成事業については、対象者の知名度や集客力の向上ができるよう、更なる広報の強化と芸術家の協力、競演等を推進していくことで、市民に優れた芸術文化に触れる機会を広く提供することに繋げる。
-----------	---

事務評価委員会意見	○日本の伝統文化を継承することは教育的に重要であり、和歌山市のように書道に特化した事業はめずらしいので、今後も事業を続けてもらいたい。 ○参加者が減ることが懸念されるので、今後も基金をうまく活用し事業を続けていくためには、内容の見直しが必要ではないか。
-----------	---





## 平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

<b>他都市の状況</b>	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	<p>現在47全都道府県に県民会議が設置されている。また、全国では1,200以上の市町村民会議が設置されている。和歌山県下の全市町村に市町村民会議の設置がある。和歌山市は昭和46年設置。東京・大阪など大都市に市町村民会議の設置されていない所が多い。青少年育成市民会議の設置 中核市 有36市 無12市。</p> <p>近畿の中核市では和歌山市、大津市、和歌山県下では紀の川市、岩出市の市町村民会議の団体の会員は、自治会、民生児童委員、PTA、子ども会、校長会、などである。これ以外の団体の会員は市により異なる。</p>	未実施都市の有無  <span style="font-size: 2em;">○</span> 有  無
			無

<b>事業の点検</b>	妥当性評価(事業ニーズはあるか)	妥当性評価(事業手段は妥当か)
	<input type="checkbox"/> 増加している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	<input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か)	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか)
	<input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	<input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか)	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか)
	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度)	効率性評価(事業費を抑制できるか)
<input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	<input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる	
効率性評価(受益者負担の見直し)		
<input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要		

廃止又は休止した場合の影響	当事業が廃止されると、青少年団体・関係機関で組織された青少年育成市民会議により行われている、子供の健全育成を目的とした各団体相互の連携が困難となり健全育成の環境の充実が図りにくくなる。
---------------	--

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)				
事業内容の方向性	充実	/	/	/
	現状維持	/	○	/
	縮小	/	/	/
	廃止	/	/	/
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

事務評価委員会 評価				
事業内容の方向性	充実	/	/	○
	現状維持	/	/	/
	縮小	/	/	/
	廃止	/	/	/
		ゼロ	縮小	現状維持
コスト投入方向性				

担当課評価の根拠	内閣府の子ども・若者白書によると、全国で1,200以上の青少年育成市民会議が設立されている。各育成市民会議は青少年の健全育成のための啓発運動などを地域の実情に即して実施している。当市においても、少年メッセージ、少年のつどい、子どもなかよしまつりなど、青少年の健全育成に資する様々な活動を行うと共に、各団体相互の連携を図り健全育成向上に寄与しているため、現状水準の事業継続が必要である。
----------	--

見直し・改善(案)	子供・若者の健全育成を市民全体で推進することを目的に、青少年団体、関係機関により青少年育成市民会議を組織し、子供の健全育成を目的とした市民行事や啓発活動を行っている。これまでの見直しでは、元々、市の少年メッセージが原稿審査のみであったものを、平成27年度から発表大会にしたことや、啓発活動推進のため、平成28年度から地域の推進員の方々の協力の下、親子七夕のゆうべの際に啓発活動を行っていることなどがある。今後も健全育成の目的のために行事や啓発活動の工夫・改善を進めて行く。
-----------	--

事務評価委員会意見	○青少年の健全育成を目的とした上で、子育て支援や福祉の充実も図りながら、他市の状況を参考に新たな行事を取り入れるなど、今後も事業を発展させていただきたい。
-----------	---

平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 1/2

事務事業名 ⑧公民館活動事業(成人祝賀式事業)

位置づけ	所 管	教育委員会事務 局	生涯学習 部	生涯学習 課	
	教育振興基本計画における位置づけ	基本方針	生涯学習の推進と郷土に誇りと愛着のある文化・スポーツの振興		
		基本目標	生涯にわたり自己実現を図る生涯学習の振興		
		基本施策	生涯学習の推進		
	根拠法令及び個別計画	和歌山市教育振興基本計画			
事業実施方法	<input type="checkbox"/> 全部直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金等交付事務 <input type="checkbox"/> その他【    】				

事業概要	事業期間	開始年度	昭和24年度	終了年度	
	事業の目的	対象者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)		
		新成人	郷土を愛する心を育み、大人への自覚を促すとともに、その前途を祝福し激励する。		
事業の内容	はたちのつどい(成人式)を開催する。 祝賀式典とアトラクションの2部構成。式典は、国家・市歌斉唱、新成人に贈ることば、新成人を祝うことば、新成人代表の「誓いのことば」、記念品贈呈、10歳児より新成人代表への花束の贈呈。アトラクションは、中学校吹奏楽部の演奏。 新成人には、新成人のしおりと記念品を贈呈。				

事業費及び人件費の推移	事業費(千円)	(財源内訳) ※人件費は除く					人件費(千円)	年間経費(千円) (事業費+人件費)	従事職員数(人)	
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他特財	一般財源			常勤	非常勤
29年度当初予算	3,198					3,198	5,373	8,571	0.54	0.60
28年度決算	3,114					3,114	5,373	8,487	0.54	0.60
27年度決算	2,923					2,923	5,774	8,697	0.32	0.67
29年度当初予算 主な内訳(千円)	交付金 2,971千円									

活動指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	はたちのつどい開催	回	目標	1	1	1	1	1	1	成人の日の前日(日曜日)に開催
			実績	1	1	1	1			
			達成率	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	0.00%		
指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		

成果指標	指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠	
	成人祝賀式参加率	%	目標	62.0	62.0	62.0	62.0	62.0	62	25年度の実績値
			実績	61.6	57.1	55.7	58.9			
			達成率	99.35%	92.10%	89.84%	95.00%	0.00%		
指標名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	全体目標値	目標値の設定根拠		

# 平成29年度 外部評価ヒアリング 事業シート 2/2

<b>他都市の状況</b>	比較参考値 (中核市の状況、国等の基準との比較等)	中核市の状況(中核市48市のうち回答があった43市の平均)  平均対象者数 : 4,084人      和歌山市の対象者数 : 3,593人 平均参加者数 : 2,817人      和歌山市の参加者数 : 2,115人 平均参加率 : 68.9%      和歌山市の参加率 : 58.9%	未実施都市の有無  有 . 無

<b>事業の点検</b>	妥当性評価(事業ニーズはあるか) <input type="checkbox"/> 増加している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 減少している	妥当性評価(事業手段は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 現行の手段でよい <input type="checkbox"/> 一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> 見直しが必要
	妥当性評価(官民の役割は妥当か) <input checked="" type="checkbox"/> 市が行うべき <input type="checkbox"/> 他の主体との協働も可能 <input type="checkbox"/> 市が行う必要性は薄れている	妥当性評価(緊急的に取り組む必要はあるか) <input type="checkbox"/> 急いで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 中長期的に取り組む <input type="checkbox"/> 緊急性は薄い
	有効性評価(更に効果が期待できるか) <input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> あまりできない <input type="checkbox"/> できない	有効性評価(成果目標はどの程度達成しているか) <input checked="" type="checkbox"/> 達成している(90%以上) <input type="checkbox"/> おおむね達成(70~90%未満) <input type="checkbox"/> 達成していない(70%未満)
	有効性評価(上位施策への貢献度) <input type="checkbox"/> 重要かつ高い貢献度がある <input checked="" type="checkbox"/> 一定の貢献度がある <input type="checkbox"/> 貢献度は低い	効率性評価(事業費を抑制できるか) <input checked="" type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 制約はあるが可能性はある <input type="checkbox"/> できる
	効率性評価(受益者負担の見直し) <input type="checkbox"/> 適正 <input checked="" type="checkbox"/> 負担は求められない <input type="checkbox"/> 見直しが必要	

廃止又は休止した場合の影響	成人の日が、1948年公布・施行され、和歌山市でも成人式が行われるようになって半世紀以上の歴史ある式典である。新成人だけでなくその保護者も大変楽しみにしている節目の行事であり、廃止・休止することはできない。
---------------	---

担当課 評価(一箇所に“○”を記入)					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

事務評価委員会 評価					
事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入方向性					

担当課評価の根拠	新成人祝賀式典は、歴史ある式典であり、郷土愛を育み、新成人に大人への自覚を促すとともに、その前途を祝福し激励するために行っている。そのために、より魅力的な内容となるよう計画をし、祝賀式典の主役である新成人の参加率を上げ、今後も継続させる必要がある。
----------	--

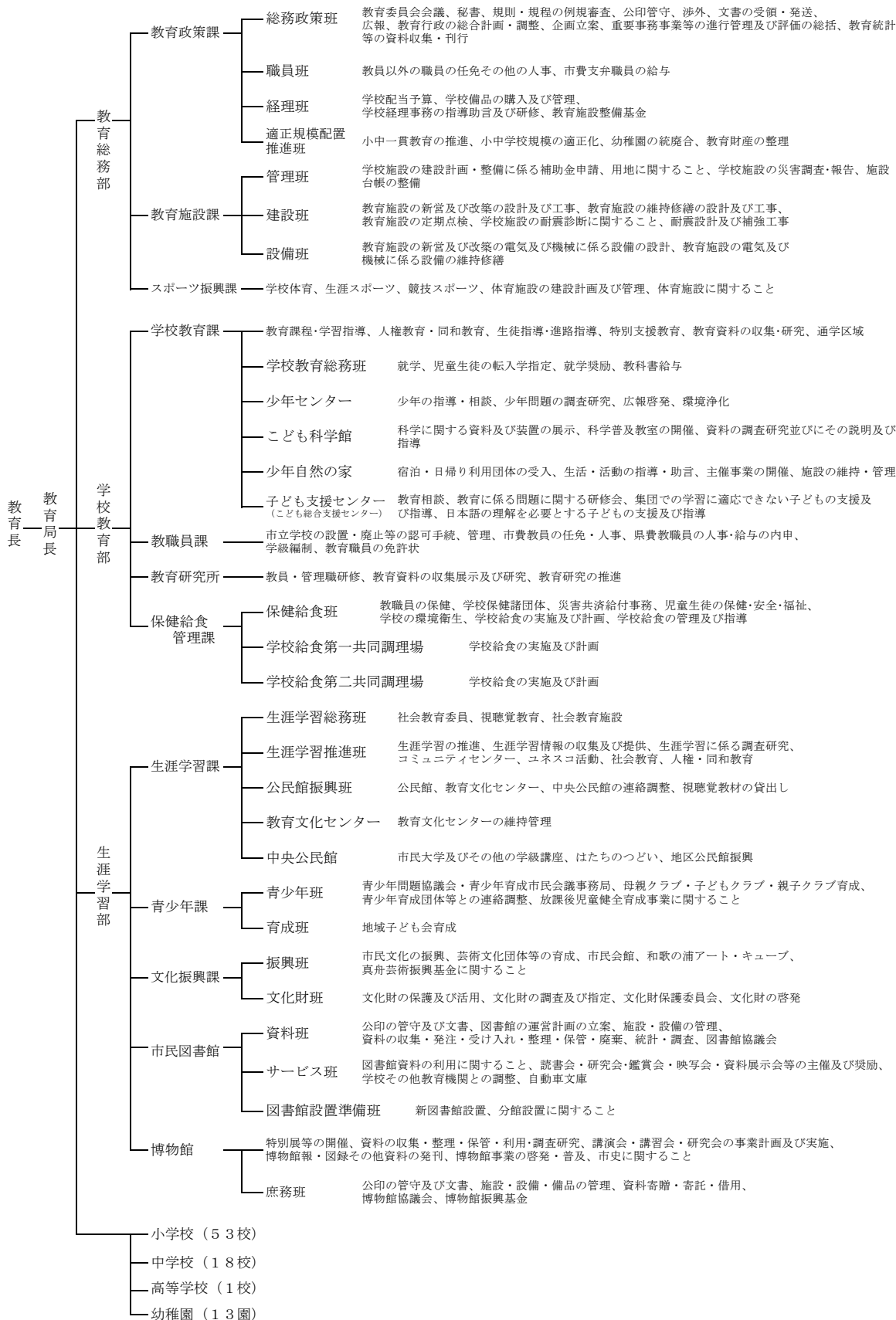
見直し・改善(案)	多くの新成人に式典に参加してもらい、また郷土を愛する心を育むため、平成28年度は、1/2成人の10歳児から新成人代表者への花束贈呈や、市内を5ブロックに分けブロックごとに記念撮影をするなど、新たな取り組みを実施した。今後も、より一層魅力的な式典となるよう計画していく。
-----------	--

事務評価委員会意見	○式典の在り方を中学生、高校生など早い段階から考える機会を設けたり、参加者にアンケートを取って希望を聞くなどし、若者の意見を積極的に取り入れることで、参加したいと思えるような魅力的な式典にしていきたい。
-----------	---



IV その他

1 教育委員会の組織 (平成28年4月1日現在)



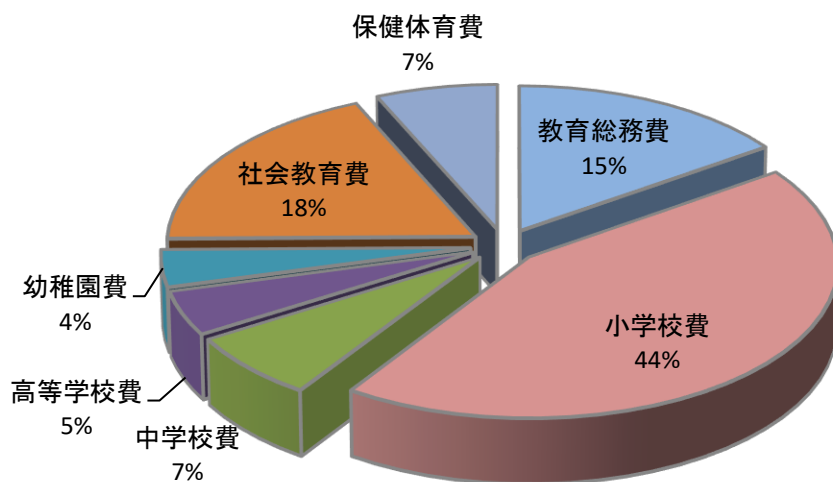
指定管理者制度導入の教育機関施設

市民会館	河南総合体育館	河西コミュニティセンター
和歌の浦アート・キューブ	市民温水プール	河北コミュニティセンター
松下体育館	市民スポーツ広場	中央コミュニティセンター
市民体育館	東部コミュニティセンター	北コミュニティセンター
市民テニスコート	河南コミュニティセンター	つつじが丘テニスコート

## 2 教育費決算額

### ① 平成28年度教育費決算額内訳

項	金額(千円)	対前年度比増減 (千円)	対前年度 伸び率(%)
教育総務費	2,060,959	175,376	9.3
小学校校費	5,892,602	2,611,503	79.6
中学校校費	926,461	39,689	4.5
高等学校校費	622,050	-989	-0.2
幼稚園費	523,458	-10,243	-1.9
社会教育費	2,483,309	322,359	14.9
保健体育費	894,353	-52,018	-5.5
計	13,403,192	3,085,677	29.9



### ② 教育費決算額の推移

単位(千円)

項	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育総務費	2,046,294	2,042,737	1,832,368	1,885,583	2,060,959
小学校校費	2,435,821	2,291,650	2,608,207	3,281,099	5,892,602
中学校校費	1,321,713	815,159	1,339,229	886,772	926,461
高等学校校費	645,934	614,818	621,114	623,039	622,050
幼稚園費	462,534	461,408	489,960	533,701	523,458
社会教育費	1,908,816	2,045,651	2,112,820	2,160,950	2,483,309
保健体育費	1,212,880	2,413,698	1,025,138	946,371	894,353
計	10,033,992	10,685,121	10,028,836	10,317,515	13,403,192

### 3 関連法令等

#### ① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

#### ② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例

（設置）

第 1 条 教育委員会の附属機関として、和歌山市教育委員会事務評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により教育委員会が行う同項の点検及び評価について調査審議し、教育委員会に意見を述べるものとする。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以内で組織する。

2 委員は、教育に関する学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから、教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 4 条 委員の任期は、委嘱した日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 6 条 委員会の会議（以下この条において単に「会議」という。）は、委員長が招集する。ただし、委員の全員が新たに委嘱された後最初に招集すべき会議は、教育委員会が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提供を求めることができる。

（守秘義務）

第 7 条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務部において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

### ③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、和歌山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 点検及び評価は、毎年、その前年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、教育行政の推進上重要な重点施策について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見を活用して自己評価結果を検証し、事務事業の改善に努めるものとする。

(結果の活用)

第3条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案及び事業実施等において活用するものとする。

(報告書の作成等)

第4条 点検及び評価の結果は、報告書を作成して議会へ提出するとともに公表するものとする。

(庶務)

第5条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務部教育政策課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

### ④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、和歌山市教育委員会事務評価委員会条例（平成25年条例第49号）第3条第2項について定めるものとする。

(委員)

第2条 第3条第2項に規定する教育に関する学識経験を有する者は、次に掲げる者とする。

- (1) 和歌山大学教授またはそれに準ずる者
  - (2) 和歌山信愛女子短期大学教授またはそれに準ずる者
- 2 第3条第2項に規定する教育委員会が必要と認める者は、次に掲げる者とする。
- (1) 公立幼稚園PTA連合会を代表する者
  - (2) 小学校PTA連合会を代表する者
  - (3) 中学校PTA連合会を代表する者
  - (4) 和歌山県私立中学高等学校協会の推薦する者



教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価に関する報告書  
対象年度 平成28年度

平成29年10月  
和歌山市教育委員会 教育総務部 教育政策課  
和歌山市七番丁23番地  
TEL 073-435-1135

